

東北大学入試センター

令和2年度年報

令和3年12月

巻頭言

東北大学入試センター長 長濱 裕幸

(東北大学大学院理学研究科地学専攻教授)

東北大学では、1907年の開学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」を基本理念に、日本と世界の将来を担う人材を育てることを最大のミッションとして、現在まで158,883人(令和2年3月31日現在)の卒業生を輩出してまいりました。入学者選抜は大学と社会との関わりの中で重要な意味を持っています。東北大学における教育を通じて指導的人材を育成し社会に貢献すること、また大学における教育・研究の基礎となるのは個々の構成員であることから、入学者選抜は教育・研究機関としての東北大学の評価にも大きく影響することになります。そこで、国立大学初のアドミッションズ・オフィス(AO)入試の実施組織として、東北大学アドミッションセンターが1999年4月に設立され、その後、学部入試と大学院入試を含む東北大学の入学者選抜を統括するために、東北大学入試センターが2005年4月に発足しました。

基本方針が入学者選抜要項等にも記載されているアドミッション・ポリシーは、策定してから10年以上経ており、数年前に策定のカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーとの関連を緊密にすすめるために、本センターを中心に改訂作業を行っており、各学部のポリシーも見直しているところです。大学・学部・選抜方法の各段階で、様々なアドミッション・ポリシーが掲げられていますが、東北大学建学以来の「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の三つの理念に基づき、本学に相応しい学生を選抜するという基本線は共通しています。具体的には、「21世紀の人類社会の課題に対して、真剣に取り組む研究者として」或いは「豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として」社会に貢献しようとする志を持ち、これを実現する固い意志、学問に対する探究心、本学学士課程を受けるのに相応しい高水準の学力を備えた学生を選抜すべく、入試センターとしても各学部と連携して取り組んでまいりました。

本学は、2017年6月30日付けで、文部科学大臣より指定国立大学法人の指定を受けました。指定国立大学法人に向けた構想は、これまでに培ってきた教育研究の成果や伝統を基盤としつつ、卓越した教育研究を通して絶えることなく人類社会に貢献する知を創造するとともに、新たな時代に向けた社会・経済システムの変革を先導することを目指して、『創造と変革を先導する大学』への進化を図るものです。東北大学は朝日新聞出版の大学ランキングで、全国の高校進路指導の先生方のアンケートのうち高校からの「総合評価」で大学ランキング2016までは11年連続全国1位でした。大学ランキング2017では残念ながら2位でしたが、大学ランキング2018以降から大学ランキング2021まで再び連続で1位となりました。また、入学後「生徒が伸びた」でも全国1位の評価を受けております。このことは全学教育を始めとする東北大学の教育に対して、先生方から高い評価を頂いたものと受け止め、いただいた評価にふさわしくあるために、襟を正し努力してゆく所存です。入試センターとしてもオープンキャンパスや大学案内や各説明会での広報活動を通し、情報提供に努めてまいります。

東北大学の志願者についてですが、令和2年度入試と令和3年度入試を比較すると少子化に加えて大学入試センター試験最後の年で受験生の安定志向もあり国立大学全体で減少となり、本学も減少となりました。また、極めて残念なことに東北地方出身者、宮城県出身者についても減少しております。本学としては、引き続き、東北地方志願者の増加に向けて努めていく所存です。

AO入試を多面的・総合的評価による重要な選抜方法として位置付け、平成33年度入試(平成32年度実施)までにAO入試入学定員を30%に拡大する方針を決定し、

2020年度は経済学部で新たに理系を対象としたAO入試が導入され、2021年度入試では31.6%に達しました。また、2021年度入試からはAO入試にインターネット出願が導入されました。言うまでも無く、本学の高大接続改革への取り組みはAO入試や特別選抜の枠の拡大に尽きるものではありません。部局評価指標では、指定国立大学法人構想調書に掲げる目的の達成の為の重要施策として、AO入試実施方法も合わせて本格的な検証と再評価を進め、学部に対する全学的な支援体制の一層の充実が大いに期待されているところです。そのために私どもは、個々人の研究と共同研究、部局との連携でなす課題、全学の協力でなすことのおそれにおいて、尚一層、力を尽くしてまいります。AO入試30%への拡大方針の下、オープンキャンパスや進学説明会・相談会等を通じて入試に関する情報提供に努めてまいります。特にオープンキャンパスは、全国でも最大規模のイベントに成長し、2019年度は参加者68,403名が参加し、過去最高の延べ参加人数となりました(朝日新聞出版「大学ランキング2021」で1位)。2020年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンラインオープンキャンパスを開催し、76,278名のオンラインでの参加がありました。今後も、高校生の皆さんにとって、より魅力ある大学としてのオープンキャンパスを企画していきたいと考えております。

更に、高大接続改革が進む中、平成28年度以降東北大学入試センター自体にも、人事面を中心に大きな改革がありました。2020年4月1日から退職された石井光夫教授の後任として宮本友弘准教授が教授に昇進し、秋田北高校教諭から伊藤博美特任教授(国語科)が着任、東京女子医科大学助教から久保沙織准教授が着任、桜美林大学に転任された泉毅助教のポストに本学教育学研究科助教から南紅玉助教が新たに着任しました。これによって本センターはセンター長を含む4教員から11教員へと体制が一新しました。このようなマンパワーの増強により、着任された先生方には各学部の様々なニーズに応じていただき、AO入試による募集人員を30%に拡大するという本学の方針を着実に進めてまいりました(2021年3月末、石上正敏特任教授、庄司勉特任教授と南紅玉助教は退職され、2021年4月1日から伊藤博美特任教授は岩手県立大学盛岡短期大学部に異動されました)。また、入試説明会とその成果の相関分析をより緻密なものにすることが可能になっています。一層の受験者増につながるための細かいデータを部局に提供しております。

国内の入試改革では、「センター試験」は2020年1月の実施を最後に廃止され、新しいテスト「大学入学共通テスト」を2021年1月に実施しました。この大学入学共通テストの開始に伴い、本センターは全学と協議しつつ、個別入試の実施方針を公表し、コロナ禍において、感染対策を徹底し、追試を含め個別入試を行いました。本センターのこれからの取り組みにご理解をいただき、今後とも変わらずご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくごお願い申し上げます。

目 次

巻頭言

1. 東北大学入試センターの組織	
1. 1 入試センターの沿革と組織概要	1
2. 令和3年度東北大学入学者選抜概要	3
2. 1 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）	3
2. 2 入学者選抜日程	5
2. 3 入学定員・募集人員	8
2. 4 入学試験実施状況	11
2. 5 志願者数の変遷	25
	p12-27は非公開
3. 令和2年度東北大学入試広報活動	28
3. 1 入試広報の概要	28
3. 2 東北大学案内（入試広報冊子）	29
3. 3 オープンキャンパス	30
3. 4 教員対象入試説明会	32
3. 5 高校生・保護者対象の東北大学進学説明会〔主催：東北大学〕	33
3. 6 高校の要請による講師派遣状況（令和2年度実績）	34
3. 7 広報活動の成果	38
4. 入試センター教員の活動	52
4. 1 東北大学入試の中長期的な企画・改善検討	52
4. 2 入学者選抜の実施	54
4. 3 入試広報活動	54
4. 4 高大接続・連携事業	54
4. 5 個別教員の活動	55

1. 東北大学入試センターの組織

1. 1 入試センターの沿革と組織概要

(1) 沿革

平成11年4月1日 東北大学アドミッションセンター設立（センター長および専任教員3名）

平成16年10月1日 アドミッションセンターの教員組織が東北大学高等教育開発推進センター高等教育開発部入試開発室に改組（専任教員定員は変わらず）

アドミッションセンターは業務組織として存続

平成17年4月1日 業務組織としてのアドミッションセンターが東北大学入試センターに改組

平成26年4月1日 入試センターの教員組織が東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室に改組（専任教員定員は変わらず）

平成28年4月1日 高大接続改革における入試改革のために入試センターを拡充，高校教員出身の特任教授2名及び若手教員1名を任期付きで採用，以後増員を図る。

平成29年4月1日 入試センターを拡充し，専任教員4名，特任教員4名の体制となった。

(2) 組織概要（令和2年）

入試センター長

長濱裕幸（東北大学大学院理学研究科教授）

兼務教員（高度教養教育・学生支援機構 入試開発室専任教員）

倉元直樹（教授，教育心理学・社会心理学；大学入試／測定評価／文化心理学等）

宮本友弘（教授，教育心理学）

久保沙織（准教授，心理統計学・教育測定）

南 紅玉（助教，教育学・生涯学習論）

特任教員

石上正敏（特任教授，物理教育），庄司 強（特任教授，数学教育）

榎田豪利（特任教授，化学教育），秦野進一（特任教授，英語教育）

末永 仁（特任教授，生物教育），伊藤博美（特任教授，国語教育）

教育・学生支援部入試課（定員8名）

宍戸和良入試課長，大友利之入試課長補佐，佐久間健治／遠藤学入試企画・調査係長，

松田和之入試実施係長，伊藤清明／高橋照幸入試実施係主任，岩間翔入試実施係員，

戸部達彦入試広報係長，齋藤知子入試広報係主任，矢野惇入試広報係員

(3) 歴代センター長

アドミッションセンター長：

第1代 中塚勝人（工学研究科教授） 平成11年4月1日～平成12年3月31日

第2代 澤谷邦男（工学研究科教授） 平成12年4月1日～平成13年3月31日

第3代 青木國彦（経済学研究科教授） 平成13年4月1日～平成14年3月31日

第4代 坂巻 清（経済学研究科教授） 平成14年4月1日～平成15年3月31日

第5代 大家 清（歯学研究科教授） 平成15年4月1日～平成17年3月31日

入試センター長：

第1代 鴨池 治（経済学研究科教授） 平成17年4月1日～平成21年3月31日

第2代 安藤朝夫 (情報学研究科教授) 平成21年4月1日～平成23年3月31日
第3代 米本年邦 (工学研究科教授) 平成23年4月1日～平成25年3月31日
第4代 牧野 周 (農学研究科教授) 平成25年4月1日～平成27年3月31日
第5代 鈴木道男 (国際文化研究科教授) 平成27年4月1日～平成29年3月31日
第6代 長濱裕幸 (理学研究科教授) 平成29年4月1日～

2 令和3年度 東北大学入学者選抜概要

2. 1 入学者選抜方針（アドミッション・ポリシー）〈令和2年4月1日現在〉

東北大学の理念

百余年の歴史と輝かしい伝統を有する東北大学は、明治40年（1907）の建学以来、「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を掲げ、優れた教育・研究を展開してきました。本学は未来に向けてこの実績を継承しつつ更なる飛躍を図り、世界をリードするワールドクラスの教育・研究拠点として、世界が直面する困難かつ複雑な課題に挑戦し、人類社会の発展に大きく貢献します。

そのために、学部や大学院、研究所等、全学の総力を結集して、人類社会の未来を担う高い倫理性を備えた国際的リーダーを育成するとともに、世界水準の創造的な研究を展開し、その成果を広く社会へ還元することに努めます。

東北大学の特徴

- ① 創立以来の三つの理念
創立後すぐに「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」の理念を確立し、時代に応じてその内容を一層発展させています。
- ② 教育環境に恵まれた総合大学
10学部、15研究科、3専門職大学院及び6研究所をはじめとする多数の教育研究組織・施設を擁し、学部・研究科と研究所等のスタッフが一体となって教育を行います（教員約3,000人、学部学生入学定員約2,400人、大学院学生入学定員約2,700人）。
- ③ 研究大学
国際的な研究成果を多数生み出し、先端的研究と教育を一体的に進める大学です。
- ④ 積極的な地域連携・産学連携
地域や産業界との間に多様な連携を積極的に発展させています。
- ⑤ 教育研究のグローバル化
本学は国立大学の中でも最も多い海外協定大学を有する大学の一つであり、活発な教育・研究交流を展開しています。多くの留学生を受け入れるとともに、海外留学を積極的に支援し、グローバルに活躍する人の育成に力を入れています。

東北大学が学部志願者に求める学生像

東北大学では、上記に掲げた理念のもとに、学士課程を通じて、

- ① 専門分野に関する知識及び学問全体への興味関心と幅広い知識に基づく複眼的視野を有し、
- ② 教養ある社会人としての素養を備え、専門分野特有の技能を生かして社会に貢献でき、
- ③ グローバル社会において指導的・中核的役割を果たす自覚と展望を持ち、基礎能力を備える人を育成します。

また学士課程教育では、幅広い知識や素養を育成する全学教育科目と専門分野の基盤的知識を習得させる専門教育科目を有機的に関連させたカリキュラムを提供し、授業内外での能動的な学習を推進するとともに、学生の自律的学習力を育成します。

このため、東北大学は、上記の本学理念に共感し、

- ① 21世紀の人類社会の課題に対し研究者として真剣に取り組み優れた貢献をしようとする志と
- ② 豊かな学識とリーダーシップを備える職業人として社会の発展に優れた貢献をしようとする志

を抱き、これを実現する固い意志と学問に対する強い好奇心を持つとともに、上記の本学学士課程教育を受けるにふさわしい高水準の学力を備えた学生を求めています。高水準の学力とは、具体的には、高等学校等で幅広い教科目を履修して優れた成績を収め、論理的思考力や問題発見・分析解決能力、豊かな創造力や発想力、表現力・コミュニケーション能力を有することを指します。さらに倫理性や、学問の課題に主体的にリーダーシップを発揮しながら他の学生と協働して取り組むことができる態度を備えていることを求めます。

東北大学の入試方法

東北大学が求める学生を選抜するために学部，学科（系），または，専攻ごとに一般選抜入学試験（一般選抜），AO入試（総合型選抜）及び各種の特別選抜入学試験（特別選抜）を実施します。

一般選抜では，5～6教科7科目の大学入学共通テストで幅広い基礎学力を評価するとともに，前期日程（全学部）では3教科，後期日程（2学部）では2教科（理学部，経済学部文系入試）又は1教科（経済学部理系入試）の個別学力試験で，本学の学修に適合する思考力や表現力を含むより高い学力を測る試験を行い，これらを主たる選抜資料として合格者を判定します。判定においては個別学力試験の成績を重視します。経済学部後期日程理系入試では経済社会問題への関心と意欲等を，医学部，歯学部については医療人としての適性を問う面接試験を行います。

東北大学を第一志望とする受験者を対象としたAO入試では，高等学校における学業成績や大学入学共通テスト，個別の筆記試験，面接試験や出願書類の審査等による選考を行います。この選考では幅広い基礎知識や論理的思考力，表現力・コミュニケーション能力等の学力とともに，豊かな人間性や創造力・発想力，倫理性，主体的学習意欲と協調性，学問に対する好奇心などを評価します。学力については，一般選抜と同等以上の水準を求めます。

特別選抜では，多様な背景を持つ人をそれぞれの特性に基づく試験により評価します。

各学部のアドミッション・ポリシー（略）

2. 2 入学者選抜日程

*新型コロナウイルス感染症対策に伴う試験期日及び試験実施上の配慮として、大学入学共通テスト特例追試験（以下「特例追試験」）受験者に対応する日程を併記しています。

*新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学志願者の受験機会を確保するため、一般選抜入学試験の追試験を設定しています。詳細については募集要項に記載します。

選抜の種類及び実施学部	一般選抜入学試験 (一般選抜)			AO入試 (総合型選抜)	
	前期日程	後期日程	追試験	Ⅱ期	Ⅲ期
	全学部	経済学部 理学部	全学部	文学部 教育学部 法学部 理学部 医学部医学科 ・保健学科 歯学部 工学部 農学部	全学部
事項					
募集要項の発表	11月中旬			8月下旬	11月中旬
出願受付	令和3年(2021年) 1月25日(月) ～2月5日(金) *特例追試験受験者は 2月15日(月)～2月18日(木)		前・後期日程 の各試験日	10月16日(金) ～22日(木)	令和3年(2021年) 1月19日(火) ～27日(水)
第1次選考の実施	—			11月7日(土)	—
第1段階選抜(第1次選考)の結果発表	令和3年(2021年) 2月15日(月) *特例追試験受験者は2月20日(土)			11月13日(金)	令和3年(2021年) 2月9日(火)
個別学力試験(第2次選考)の実施	令和3年(2021年) 2月25日(木) ～26日(金)	令和3年(2021年) 3月12日(金)	令和3年(2021年) 3月22日(月)	11月21日(土)	令和3年(2021年) 2月13日(土)
合格者発表	令和3年(2021年) 3月9日(火)	令和3年(2021年) 3月22日(月)	令和3年(2021年) 3月26日(金)	11月27日(金)	令和3年(2021年) 2月15日(月)
入学手続	令和3年(2021年) 3月12日(金) ～15日(月)	令和3年(2021年) 3月25日(木) ～26日(金)	令和3年(2021年) 3月27日(土) ～30日(火)	12月14日(月) ～17日(木)	令和3年(2021年) 2月16日(火) ～22日(月)

注) AO入試Ⅰ期は、平成25年度入試をもって廃止しました。

注) 特例追試験を受験したAO入試Ⅲ期および地域枠入試への入学志願者は、合否判定の対象とならないので、希望に応じて一般選抜入学試験へ振替えをすることができます。

参考 大学入学共通テスト試験日： 令和3年(2021年)1月16日(土)～17日(日) [<https://www.dnc.ac.jp/>]

令和3年(2021年)1月30日(土)～31日(日) [<https://www.dnc.ac.jp/>]

特例追試験試験日： 令和3年(2021年)2月13日(土)～14日(日) [<https://www.dnc.ac.jp/>]

選抜の種類 及び 実施 学部 事 項	特 別 選 抜 入 学 試 験 (特 別 選 抜)				
	地域枠入試	科学オリン ピック入試	国際バカロレア入試		帰国生徒 入試
	医学部医学科	理学部	文学部 理学部 医学部医学科 工学部 農学部	法学部 薬学部	理学部 医学部医学科
募集要項の 発 表	11月中旬	8月下旬	8月下旬		8月下旬
出 願 受 付	令和3年 (2021年) 1月19日(火) ～27日(水)	10月16日(金) ～22日(木)	10月16日(金) ～22日(木)	令和3年 (2021年) 1月19日(火) ～27日(水)	10月16日(金) ～22日(木)
第1次選考 の 実 施	—	11月7日(土)	11月7日(土)	—	11月7日(土)
第1次選考 の 結 果 発 表	令和3年 (2021年) 2月9日(火)	11月13日(金)	11月13日(金)	—	11月13日(金)
選 抜 試 験 (第2次選考) の 実 施	令和3年 (2021年) 2月13日(土)	11月21日(土)	11月21日(土)	令和3年 (2021年) 2月13日(土)	11月21日(土)
合 格 者 発 表	令和3年 (2021年) 2月15日(月)	11月27日(金)	11月27日(金)	令和3年 (2021年) 2月15日(月)	11月27日(金)
入 学 手 続	令和3年 (2021年) 2月16日(火) ～22日(月)	12月14日(月) ～17日(木)	12月14日(月) ～17日(木)	令和3年 (2021年) 2月16日(火) ～22日(月)	12月14日(月) ～17日(木)

参考 日本留学試験 試験日：11月8日(日) (第2回) [<https://www.jasso.go.jp/eju/>]

選抜の種類 及び 実施学 部	特 別 選 抜 入 学 試 験 (特 別 選 抜)				
	帰国生徒 入試	私費外国人 留学生入試	グローバル入試		国際学士コース入試
	工学部	全学部	工学部 (10月入学)	理学部 工学部 (10月入学)	理学部 工学部 農学部 (10月入学)
第Ⅰ期募集			第Ⅱ期募集		
事 項					
募集要項の 発 表	8月下旬	8月下旬	8月下旬		5月中旬
出 願 受 付	令和3年 (2021年) 1月4日(月) ～7日(木)	令和3年 (2021年) 1月4日(月) ～7日(木)	令和3年 (2021年) 1月19日(火) ～27日(水)	令和3年 (2021年) 1月4日(月) ～8日(金)	令和3年 (2021年) 1月5日(火) ～13日(水)
第1次選考 の 実 施	—	—	—	—	—
第1次選考 の 結 果 発 表	—	—	令和3年 (2021年) 2月9日(火)	令和3年 (2021年) 2月8日(月)	令和3年 (2021年) 2月8日(月)
選 抜 試 験 (第2次選考) の 実 施	令和3年 (2021年) 2月13日(土)	令和3年 (2021年) 3月22日(月)	令和3年 (2021年) 2月13日(土)	令和3年 (2021年) 3月中旬	令和3年 (2021年) 3月中旬
合 格 者 発 表	令和3年 (2021年) 2月20日(土)	令和3年 (2021年) 3月26日(金)	令和3年 (2021年) 2月15日(月)	令和3年 (2021年) 4月1日(木)	令和3年 (2021年) 4月1日(木)
入 学 手 続	令和3年 (2021年) 2月22日(月) ～27日(土)	令和3年 (2021年) 3月27日(土) ～30日(火)	令和3年 (2021年) 2月16日(火) ～22日(月)	令和3年 (2021年) 4月1日(木) ～9日(金)	令和3年 (2020年) 4月1日(木) ～9日(金)

注) 特例追試験を受験した帰国生徒入試およびグローバル入試第Ⅰ期募集への入学志願者は、合否判定の対象とならないので、大学入学共通テストのうち各学部が一般選抜入学試験において指定する教科・科目(19, 20ページ参照)を受験している場合は、希望に応じて一般選抜入学試験へ振替えをすることができます。

2. 3 入学定員・募集人員

学部・学科等		入学定員	募 集 人 員											
			一般選抜		A O 入 試		特 別 選 抜							
			前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期	地域枠入試	科学オリピック入試	国際バカロレア入試	帰国生徒入試	私費外国人留学生入試	グローバル入試Ⅰ期	グローバル入試Ⅱ期	国際学士コース入試
文学部	人文社会科学	210	147		27	36			若干人		若干人			
教育学部	教育科学科	70	49		14	7					若干人			
法学部	法 学 科	160	112		24	24			若干人		若干人			
経済学部	経済学科 経営学科	260	文系147 理系10	文系25 理系10		文系58 理系10					若干人			
理学部	数学系	数 学 科	45	27	8	10			若干人	若干人	若干人	若干人		
	物理系	物理学科 宇宙地球物理学科	119	72	20	15	12		若干人	若干人	若干人	若干人		
	化学系	化 学 科	70	40	13	5	12		若干人	若干人	若干人	若干人	若干人	若干人
	地球科学系	地圏環境科学科 地球惑星物質科学科	50	29	10	5	6		若干人	若干人	若干人	若干人		
	生物系	生 物 学 科	40	25	7	5	3		若干人	若干人	若干人	若干人		
	小 計		324	193	58	40	33		若干人	若干人	若干人	若干人		若干人
医学部	医 学 科		116	77		15	12	宮城7 岩手2		3				
	保健学科	看護学専攻	70	50		10	10				若干人			
		放射線技術科学専攻	37	25		4	8				若干人			
		検査技術科学専攻	37	25		4	8				若干人			
	小 計		260	177		33	38	9		医学科は合わせて 3				
歯学部	歯 学 科	53	37		8	8				若干人				
薬学部	創薬科学科 薬 学 科	80	56			24		若干人		若干人				

学部・学科等		入学定員	募 集 人 員											
			一般選抜		A O 入 試		特 別 選 抜							
			前期日程	後期日程	Ⅱ期	Ⅲ期	地域枠入試	科学オリンピック入試	国際バカロレア入試	帰国生徒入試	留学生入試	私費外国人入試	グローバル入試Ⅰ期	グローバル入試Ⅱ期
工学部	機械知能・航空工学科	234	164		25	30			若干人	若干人	若干人	15		
	電気情報物理工学科	243	170		36	37			若干人	若干人	若干人			
	化学・バイオ工学科	113	79		17	17			若干人	若干人	若干人			
	材料科学総合学科	113	79		17	17			若干人	若干人	若干人			
	建築・社会環境工学科	107	75		17	15			若干人	若干人	若干人			
	小 計	810	567		112	116			若干人	若干人	若干人	15		
農学部	生物生産科学科 応用生物化学科	150	105		23	22			若干人		若干人			若干人
計		2,377	1,600	93	281	376	9	若干人	若干人	若干人		若干人	若干人	
											工学部機械知能・航空工学科は合わせて 15			
											医学部医学科は合わせて 3			

- (注) 1 入学定員の中には、若干人と記載のある入試の募集人員を含みます。
2 全学部が行うA O入試において、合格者数が募集人員に満たない場合には、その欠員分は一般選抜（前期日程）の募集人員に加えます。
3 合格者発表の後、入学手続き者が入学定員に満たない場合には、追加合格による欠員補充を行うことがあります。
4 医学部医学科の一般選抜（前期日程）の募集人員 77 名のうち 2 名及び地域枠入試の募集人員 9 名については「経済財政運営と改革の基本方針 2018」（平成 30 年 6 月 15 日閣議決定）に基づく令和 2 年度から 2 年間の時限措置です。

2 募集方法

学部・学科		募集方法
文学部 教育学部 法学部		・学部単位で募集します。
経済学部		・一般選抜，AO入試：文系入試・理系入試の2入試単位で募集します。志願する入試区分を一つ選んでください。 ・私費外国人留学生入試：学部単位で募集します。
理学部		・系単位で募集します。 一般選抜： 第2志望の系まで選ぶことができます。 ただし，後期日程については，数学系は第1志望のみの募集とします。 AO入試・科学オリンピック入試・国際バカロレア入試・帰国生徒入試・私費外国人留学生入試： 志望する系を一つ選んでください。
医学部	医学科	・学科単位で募集します。 地域枠入試：宮城県地域枠・岩手県地域枠単位で募集します。
	保健学科	・専攻単位で募集します。
歯学部 薬学部		・学部単位で募集します。
工学部		・学科単位で募集します。 一般選抜： 第3志望の学科まで選ぶことができます。 AO入試・国際バカロレア入試・帰国生徒入試・私費外国人留学生入試： 志望する学科を一つ選んでください。
農学部		・学部単位で募集します。

3 受験上及び修学上の配慮を必要とする入学志願者との事前相談

受験上及び修学上の配慮を必要とする者は，必ず事前に相談の上，入試課（74 ページ参照）へ申請用紙を請求し，以下の期日までに提出してください。以下に記載のない入試については，各募集要項で定める所定の期日までに提出してください。

申請の内容について，本学において，入学志願者や関係者等との面談を行う場合があります。

なお，所定の期日を過ぎてから申し出があった場合や，相談の内容によっては対応できないことがあります。できるだけ早めに申し出てください。

AO入試Ⅱ期	令和2年（2020年）9月18日（金）
AO入試Ⅲ期	令和2年（2020年）12月15日（火）
一般選抜	令和2年（2020年）12月15日（火）

令和3年度入学試験実施状況(総括表・4月入学)

令和3年4月1日

区分	入学定員	募集人員	志願者数	倍率	第1次選考受験者数	第1次選考合格者数	第2次選考受験者数	第2次選考合格者数	入学者数
一般選抜	文学部	210	147	395	2.7倍	395	395	351	167
	教育学部	70	49	130	2.7倍	130	130	119	52
	法学部	160	112	331	3.0倍	331	331	302	124
	経済学部	260	172	872	5.1倍	872	800	478	197
	理学部	324	20	125	6.3倍	125	125	67	30
	医学部	116	77	243	3.2倍	243	231	210	81
	看護学専攻	70	50	91	1.8倍	91	91	77	52
	放射線技術科学専攻	37	25	77	3.1倍	77	77	64	28
	検査技術科学専攻	37	25	80	3.2倍	80	80	67	28
	保健学科計	144	100	248	2.5倍	248	248	208	108
	薬学部	260	177	491	2.8倍	491	479	418	189
	薬学部	53	37	115	3.1倍	115	115	95	45
	薬学部	80	56	209	3.7倍	209	209	181	61
	農学部	810	567	1,580	2.8倍	1,580	1,580	1,457	590
	農学部	150	105	295	2.8倍	295	295	269	111
	一般選抜計	2,377	1,693	5,750	3.4倍	5,750	5,538	4,356	1,830
AO入試Ⅱ期	文学部	-	27	98	3.6倍	98	42	42	27
教育学部	-	14	39	2.8倍	39	13	13	10	
法学部	-	24	78	3.3倍	77	36	36	24	
理学部	-	40	161	4.0倍	161	73	73	37	
医学部	-	15	127	8.5倍	127	40	40	17	
看護学専攻	-	10	55	5.5倍	55	18	18	11	
放射線技術科学専攻	-	4	20	5.0倍	20	7	7	4	
検査技術科学専攻	-	4	21	5.3倍	21	8	8	3	
保健学科計	-	18	96	5.3倍	96	33	33	18	
医学部計	-	33	223	6.8倍	223	73	73	35	
薬学部	-	8	17	2.1倍	17	9	9	5	
薬学部	-	112	411	3.7倍	411	239	239	115	
農学部	-	23	78	3.4倍	78	40	40	23	
AO入試Ⅱ期計	-	281	1,105	3.9倍	1,104	525	525	276	
AO入試Ⅲ期	文学部	-	36	71	2.0倍	71	56	56	34
教育学部	-	7	16	2.3倍	16	14	14	11	
法学部	-	24	46	1.9倍	46	36	36	24	
経済学部	-	58	83	1.4倍	83	83	83	58	
理学部	-	10	11	1.1倍	11	11	11	7	
医学部	-	33	85	2.6倍	85	55	55	34	
看護学専攻	-	12	59	4.9倍	59	36	36	13	
放射線技術科学専攻	-	10	37	3.7倍	37	19	19	12	
検査技術科学専攻	-	8	14	1.8倍	14	12	12	8	
保健学科計	-	8	19	2.4倍	19	14	14	8	
医学部計	-	26	70	2.7倍	70	45	45	28	
薬学部	-	38	129	3.4倍	129	81	81	41	
薬学部	-	8	28	3.5倍	28	14	13	6	
薬学部	-	24	54	2.3倍	54	39	39	24	
農学部	-	116	298	2.6倍	298	197	196	113	
農学部	-	22	44	2.0倍	44	33	33	18	
AO入試Ⅲ期計	-	376	865	2.3倍	865	619	617	370	
地域枠入試	医学部 宮城県地域枠	-	7(※1)	15	2.1倍	15	13	13	6
医学部 西手県地域枠	-	2	5	2.5倍	5	5	5	2	
地域枠入試計	-	9	20	2.2倍	20	18	18	8	
科学オリンピック入試	理学部	-	若干人	1	-	1	1	0	
科学オリンピック入試計	-	-	若干人	0	-	0	0	0	
国際バカロレア入試	文学部	-	若干人	0	-	0	0	0	
法学部	-	若干人	0	-	0	0	0	0	
理学部	-	若干人	2	-	2	1	1	1	
医学部 医学部	-	※2	1	-	1	0	0	0	
薬学部	-	若干人	1	-	-	-	1	0	
農学部	-	若干人	0	-	0	0	0	0	
農学部	-	若干人	0	-	0	0	0	0	
国際バカロレア入試計	-	若干人	4	-	3	1	2	1	
特別選抜	文学部	-	若干人	5	-	-	2	2	
教育学部	-	若干人	5	-	-	1	1		
法学部	-	若干人	5	-	-	3	0		
経済学部	-	若干人	8	-	-	2	1		
理学部	-	若干人	8	-	-	1	0		
医学部	-	※2	5	-	-	3	0		
看護学専攻	-	若干人	1	-	-	1	0		
放射線技術科学専攻	-	若干人	0	-	-	0	0		
検査技術科学専攻	-	若干人	0	-	-	0	0		
保健学科計	-	若干人	1	-	-	1	0		
医学部計	-	若干人	6	-	-	4	0		
薬学部	-	若干人	3	-	-	2	1		
薬学部	-	若干人	3	-	-	0	0		
農学部	-	若干人	18	-	-	4	3		
農学部	-	若干人	3	-	-	0	0		
私費外国人留学生計	-	若干人	63	-	-	20	10		
帰国生徒入試	理学部	-	若干人	6	-	6	4	2	
医学部 医学部	-	※2	4	-	4	3	0		
農学部	-	若干人	9	-	9	7	7		
帰国生徒入試計	-	若干人	19	-	10	8	9		
合計	2,377	2,359	7,827	3.3倍	7,753	6,710	5,555	2,504	
合計								2,413	

※1 地域枠入試(医学部医学科)の宮城地域枠のうち宮城県出身者4名以上

※2 医学部医学科の国際バカロレア入試・私費外国人留学生入試・帰国生徒入試の入学定員は合計3名

2. 4 入学試験実施状況

3. 令和2年度東北大学入試広報活動

3. 1 入試広報の概要

令和2年度の入試広報は、以下のような基本方針を策定したが、新型コロナウイルス感染症の影響により、内容を変更し実施した。

基本方針：

- 1) 特色化 国立大学最大規模のオープンキャンパス、高校との意思疎通を円滑にするきめ細かな高校訪問などの本学の特色ある活動を継続、充実させていく。
- 2) 焦点化 従来の入試説明会、進学説明会・相談会等の実施方法を絶えず点検し、対象地域や対象層、説明内容等について焦点を明確にし、より効果的に浸透する方法を開拓する。
- 3) 広域化 広域型活動を充実させていくとともに、特定対象型（高校訪問、説明会等）においても対象地域を広げる試みを継続する。
- 4) AO入試30%方針の下で、AO入試志願者が少ない地域（山形、福島、南関東、西日本等）への広報活動を強化する。

内容：

- (1) オープンキャンパス
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面型オープンキャンパスの代替として、オンラインオープンキャンパスを開催
 - ・オンラインオープンキャンパスサイトの公開
 - 7月29日（木）～令和3年3月31日（水）まで
 - 9月21日（月・祝日）、9月22日（火・祝日）の両日にライブイベントを開催
- (2) 「東北大学案内」の作成・配布
 - ・2021年度版を10月に配布（35,000s部）
 - ・2022年度版作成に向けて準備開始（11月～）
- (3) 本学ウェブサイトによる入試情報提供
 - ・「入試センターウェブサイト」による有効な情報提供について引き続き検討する
- (4) 東北大学入試説明会（高校教員対象）
 - ・対面型入試説明会（中止）
 - ・オンライン入試説明会の実施
 - 7月13日（月）～8月7日（金）まで
- (5) 東北大学進学説明会・相談会（高校生対象）
 - ・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、対面型進学説明会・相談会の代替として、オンライン進学説明会・相談会を開催
 - ・オンライン進学説明会・相談会サイトの公開
 - 7月29日（木）～令和3年3月31日（水）まで
- (6) その他の入試・進学説明会
 - ①地元高校要請入試説明会
 - ・在仙3大学説明会（9月）は、要請に応じて開催。
 - ・在仙主要高校説明会（中止）
 - ②民間業者等開催の説明会
 - ・夢ナビオンライン（10月3日・4日）に参加
 - ・その他主催者からの各種申し込みについては入試センターで適宜対応（オンライン参加2件）。

- ・「全国国公立・有名私大相談会 2019」（朝日新聞社主催）（中止）
- ・難関大学合同説明会（Z会主催）（中止）

（7）高校訪問

- ・入試センター教員が行う高校訪問（中止）
- ・各学部実施の高校訪問については、各学部の責任で計画的に実施。
- ・学部の高校訪問に関して昨年開始した学部報告に基づく情報提供を引き続き実施する。

3. 2 東北大学案内（入試広報冊子）

本案内については、入試企画・広報委員会、広報WGにおいて、本学を志望する高校生、その父母および高校教員等を主対象とした、本学に関する第一次資料（最初に見るまとまった印刷物）と位置づけ、各学部の案内資料やウェブサイト等の詳細情報、オープンキャンパス、各種進学説明会等のイベントへの導入的機能を持たせるものとし、本学の特徴・独自性が明確に示される内容としている。

作成した 35,000 部は、受験希望者等に配布している。

なお、同案内はデータ化され、本学のウェブサイトにも掲載している。



3. 3 オープンキャンパス

(1) オープンキャンパスの概要

①開始時期

東北大学オープンキャンパスは、昭和57年に工学部の金属系3学科が学科公開をしたのが始まりで、平成7年度には工学部の全学科（17学科）が他学部在先がけてオープンキャンパスを実施した。その後、工学部の他に、理学部及び薬学部が実施していたが、高等学校及び大学内部からの要請もあり、平成11年度より全学部（10学部）において実施している。

平成15年度から大学院研究科や図書館も参加、全学的な事業となっている。

②開催の趣旨

本学入学を志す者を対象として、本学の教育・研究を正しく理解し、適切な進路を選択するに当たった参考と資するため、本学各学部・研究科等の概要を説明するとともに、教育・研究内容、学内の諸施設等を紹介する目的で実施している。

③名称

平成11・12年度における名称は、「平成〇年度受験生のための東北大学説明会及びオープンキャンパス」であったが、平成13年度より「東北大学オープンキャンパス」に変更した。

④実施部局数

当初は学部のみであったが、平成15年度以降は学部以外にも実施する部局（附属図書館や独立研究科等）が増加し、平成31年度では10学部の他に13の部局が実施している。

⑤開催日程について

平成11～21年度は、7月最後の連続する平日2日間で開催していたが、平成22年度以降は、金曜日を除く7月最後の連続する平日2日間、平成26年度以降は、金曜日を除く7月最後の連続する平日2日間、ただし、30日が月曜日と重なる場合、7月31日（火）及び8月1日（水）に開催することとした。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響によりオンラインでの開催とした。

⑥オンラインオープンキャンパス開催の経緯

新型コロナウイルス感染症の影響により、オープンキャンパスの対面実施が困難となり、これに変わる代替措置として「東北大学オンラインオープンキャンパスサイト」を開設した（期間：7月29日（木）～令和3年3月31日（水）まで）。

⑦オンラインオープンキャンパスの実施内容

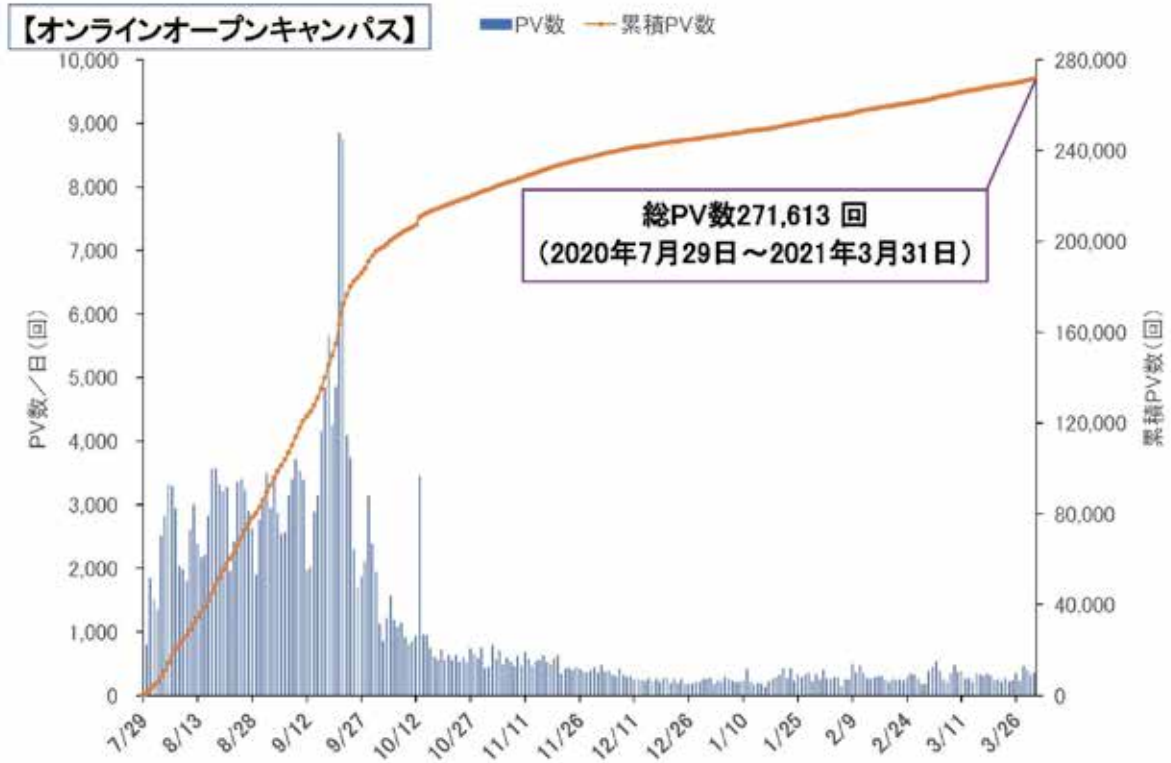
企画の具体的内容については、各学部及びその他の参加部局に一任しており、学部（研究科）概要説明、入試説明会、模擬講義、研究紹介等のオンデマンド配信に加え、9月18日（土）19日（日）には、ZOOM等ウェブ会議システムを使用してリアルタイムイベントを集中開催した。

⑧本学入学者とオープンキャンパス参加との関係

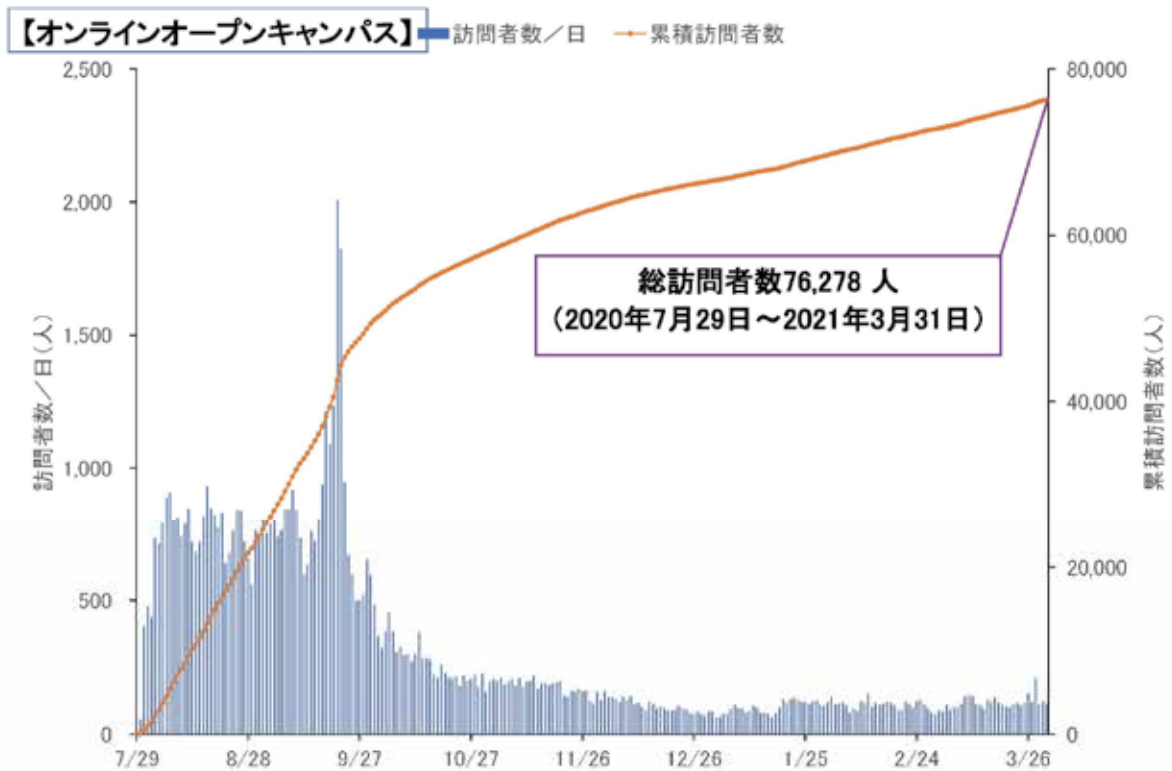
「令和2年度東北大学新入学者対象アンケート」（令和2年度入学者2,416名中2,372名が回答。回答率98.2%）の結果によると、入学者全体のうち、高校在学中に本学のオープンキャンパス（オンライン含む）参加経験率50%台を維持している（東北地方に所在する高校出身者では79%程度）。また、入学者のうちAO入試受験者の42%がオープンキャンパス参加経験を有しており、オープンキャンパスは進路決定に多大な影響を与えている。

(2) オンラインオープンキャンパスのデータ (令和2年度)

総PV数



総訪問者数



3. 4 教員対象入試説明会

(1) 本学主催オンライン入試説明会（令和2年度）：進路指導教諭対象

参加校の所在地		日程	参加校数	参加者数	(参考) R1 参加校数	(参考) R1 参加者数
北海道 東北	北海道	7/14, 7/30	7校	9名	15校	22名
	青森	7/16, 7/21ほか	11校	14名	8校	10名
	岩手	7/16, 7/28ほか	8校	8名	15校	22名
	宮城	7/13, 7/17ほか	19校	30名	103校	232名
	秋田	7/16, 7/21ほか	11校	13名	11校	21名
	山形	7/15, 7/22ほか	5校	6名	8校	11名
	福島	7/16, 7/22ほか	14校	18名	9校	12名
	小計		75校	98名	169校	330名
関東	茨城	7/13, 7/22ほか	7校	7名	15校	17名
	栃木	7/27, 8/7	2校	2名	18校	24名
	群馬	7/13, 7/22ほか	9校	9名	22校	27名
	埼玉	7/22, 7/27ほか	10校	12名	-	-
	千葉	7/14, 7/17ほか	10校	11名	-	-
	東京	7/14, 7/17ほか	17校	20名	48校	49名
	神奈川	7/14, 7/21ほか	7校	7名	-	-
	小計		62校	68名	103校	117名
北陸 東海 中部	新潟	7/16, 8/6ほか	6校	7名	16校	20名
	富山	7/28	1校	1名	-	-
	石川	7/21	3校	3名	4校	6名
	福井	7/16, 7/28	2校	2名	-	-
	山梨	7/29	1校	1名	9校	9名
	長野	7/28	1校	1名	8校	13名
	岐阜	7/20, 7/28	2校	2名	-	-
	静岡	7/20, 7/28ほか	10校	11名	8校	9名
	愛知	7/20, 7/28	2校	2名	15校	16名
	小計		28校	30名	60校	73名
近畿	三重	7/28, 8/4	2校	2名	-	-
	京都	7/29	1校	1名	-	-
	大阪	7/16, 7/29	4校	4名	18校	19名
	兵庫	7/16, 7/29	2校	2名	-	-
	和歌山	7/16	1校	1名	-	-
	小計		10校	10名	18校	19名
中国 四国 九州	鳥取	7/15	2校	3名	-	-
	島根	7/15	1校	1名	-	-
	岡山	7/15	1校	1名	6校	8名
	広島	7/15	1校	1名	4校	4名
	山口	7/15, 7/16	3校	3名	-	-
	香川	7/15, 7/16	3校	3名	-	-
	高知	7/15, 8/4	3校	3名	-	-
	福岡	7/14	1校	1名	6校	6名
	宮崎	8/3	1校	1名	-	-
	沖縄	8/7	1校	1名	-	-
小計		17校	18名	16校	18名	
その他(海外)	7/21, 8/3	2校	2名	-	-	

38都道府県	39回(セッション数)	194校	226名	366校	557名
--------	-------------	------	------	------	------

*ウェブ会議システムを使用。

*入試センター教員が担当。

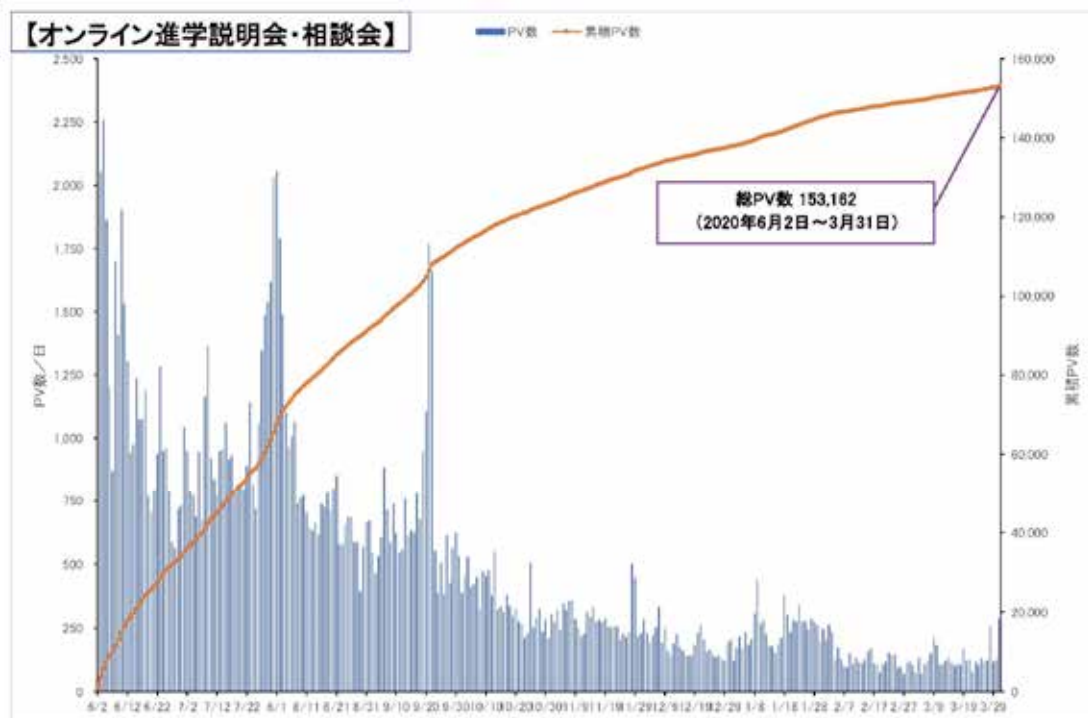
3. 5 高校生・保護者対象の東北大学進学説明会・相談会 [主催：東北大学]

(1) オンライン進学説明会・相談会

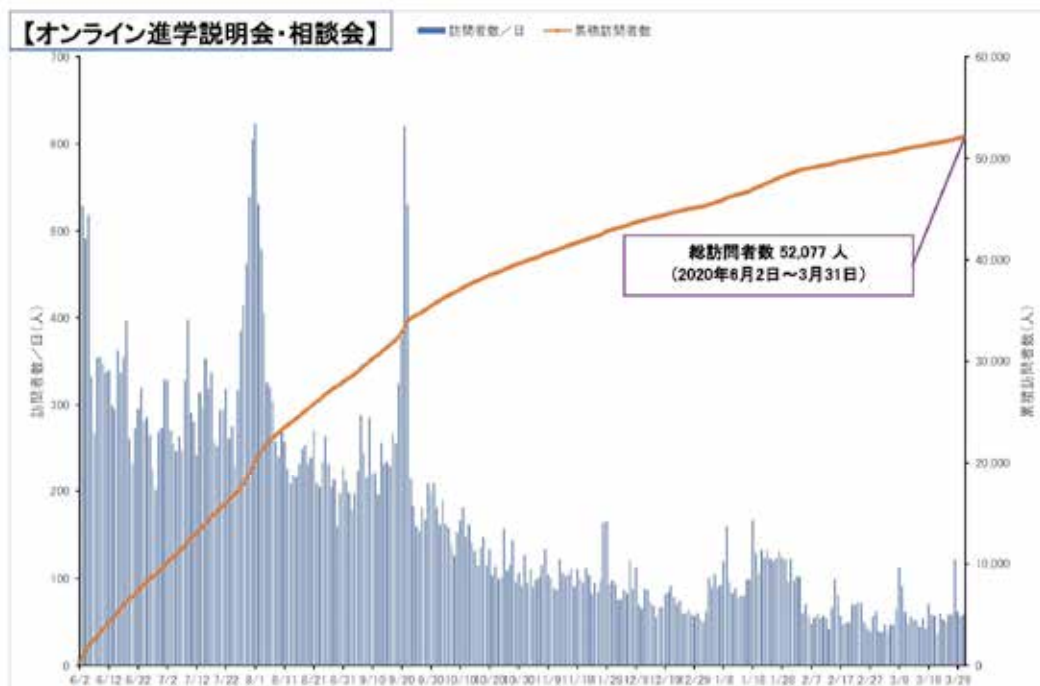
新型コロナウイルス感染症の影響により、全国6会場で進学説明会・相談会の対面実施が困難となり、これに変わる代替措置として「東北大学進学説明会・相談会サイト」を開設した（期間：6月2日（火）～令和3年3月31日（水）まで）。

企画の具体的内容については、10学部の概要説明、学部長挨拶、学部の資料などのオンデマンドコンテンツを掲載した他、その他のコンテンツは各学部及びその他の参加部局に一任した。

総PV数



総訪問者数



3. 6 高校の要請による講師派遣状況（令和2年度実績）

日付	高校名	参加学部等												その他	オンライン
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農		
5/15	船橋高校											●			
5/22	仙台第三高校											●			
5/29	仙台第三高校											●			
6/6	仙台育英学園											●			
6/11	古川黎明高校											●			
7/3	五所川原高校						●								
7/4	仙台育英学園											●			
7/9	秋田高校	●													
7/24	水沢高校											●			
8/4	山形東高校	●													
8/4	上田高校											●			
8/5	能代高校											●			
8/6	生野高校											●			★
8/11	大曲高校	●													
8/20	山形東高校	●	●	●	●	●	●	●				●	●		
8/21	石橋高校											●			
8/21	室蘭栄高校											●			
8/26	大館鳳鳴高校											●			
8/28	札幌東高校											●			
8/29	川口市高校	●													★
8/29	茨城高校	●													
9/2	甲府東高校											●			★
9/8	仙台二華高校											●			
9/11	磐田南高校											●			
9/18	静岡東高校											●			
9/18	広島市基町高校											●			
9/19	屋代高校											●			★
9/21	盛岡第一高校						●								★
9/21	芝高校						●								★
9/21	栃木高校						●								★

日付	高校名	参加学部等												その他	オンライン	
		入	文	教	法	経	理	医	保	菌	薬	工	農			
9/21	前橋高校						●									★
9/22	弘前高校						●									★
9/22	原町高校						●									★
9/23	八戸高校											●				
9/23	小松高校											●				
9/24	出雲高校											●				
9/25	松江北高校											●				
9/28	白石高校											●				
9/30	山形東高校											●				
9/30	三田高校											●				
10/1	米沢興譲館高校	●					●	●			●	●	●			
10/2	並木中等教育学校				●											★
10/3	須磨学園高校	●														★
10/3	泉館山高校											●				★
10/8	春日部高校											●				
10/8	札幌第一高校											●				
10/9	弘前高校											●				
10/10	仙台第一高校											●				
10/13	沼田高校											●				★
10/13	石巻高校											●				
10/14	高崎高校											●				★
10/14	国分寺高校											●				★
10/15	盛岡第二高校			●												
10/15	藤枝東高校											●				
10/19	城北埼玉高校											●				★
10/20	青森高校	●														
10/22	函館中部高校 相談会	●														
10/22	五所川原高校											●				
10/22	大阪教育大学附属高校天王寺校舎											●				
10/23	角田高校											●				

日付	高校名	参加学部等												その他	オンライン		
		入	文	教	法	経	理	医	保	歯	薬	工	農				
10/24	長野高校				●	●											★
10/24	函館中部高校												●				
10/24	安積高校												●				
10/26	弘前高校				●		●					●	●	●			
10/27	下関南高校	●															
10/27	八戸高校												●				★
10/27	伊東高校												●				
10/27	八戸北高校												●				
10/27	古川高校												●				
10/28	橘高校						●										
10/28	橘高校											●					
10/28	橘高校													●			
10/28	函館ラ・サール高校												●				
10/28	立川高校												●				
10/28	日立北高校												●				
10/28	橘高校												●				
10/29	水戸第一高校			●								●					★
10/29	神戸高校												●				★
10/29	中央中等教育学校												●				
10/29	青森高校												●				
11/4	仙台第一高校												●				
11/6	仙台青陵中等教育学校												●				
11/7	会津高校												●				
11/9	竹園高校												●				
11/9	三島北高校												●				
11/10	札幌旭丘高校												●				
11/11	富士高校												●				
11/12	仙台第一高校												●				
11/12	足利高校												●				
11/13	清水東高校												●				★

3.7 広報活動の成果¹⁾

3.7.1 新型コロナウイルス感染症の影響による入試広報活動²⁾の転換

2020（令和2）年1月下旬頃から世界中で新型コロナウイルス感染症（以下、「COVID-19」と表記する）が猛威を振るっている。COVID-19の脅威は人々の日常を大きく変えた。2020（令和2）年は、東北大学の入試広報活動も大きな転換期を迎えることとなった。

寺下・村松（2009）は、大学の教育・研究や入試情報等を印刷物やホームページを通じて受験生に伝える広報活動を「発信型広報」、受験生と直接対話する広報活動を「対面型広報」、オープンキャンパス等、学内に受験生を招き入れる広報活動を「学内型広報」と分類した。東北大学が得意としてきた入試広報活動は対面型広報と学内型広報だったが、いずれも「密閉」「密接」「密集」という、COVID-19の伝染を加速させる「3密状態」を回避するのは難しい。結果的に2021（令和3）年度入試に向けた大学入試広報活動は、COVID-19の蔓延によって著しく制限を受けることとなった。

そこで、急遽、各大学とともに競って取り組んだのが入試広報活動のオンライン化である。従来の発信型広報が基本的に大学からの一方的な情報提供であったのに対し、一部にテレビ会議システムを通じた双方向のやり取りが含まれることが特徴である。期せずして、従来の枠組にまたがる特徴を有するハイブリッド型の目新しい入試広報活動の黎明期が訪れた。

3.7.2 東北大学の入試広報活動に対する外部からの評価

本学の入試広報活動は高校からの評価が高いことが知られている。朝日新聞出版の「大学ランキング」の「高校からの評価ランキング」における「広報に熱心な大学³⁾」ランキングでは常に上位に位置してきた（例えば、朝日新聞出版、2020）。2016年版で名だたる私立大学を抑えて全国1位となり、その後もその立場を維持してきた。本学に対する高評価は偶然の産物ではない。効果的な広報活動を継続するための組織上の工夫とそれを維持するバックボーンとなる調査研究活動が支えとなった結果でもある。

さらに、最新の「大学ランキング」（朝日新聞出版、2021）では、全国の国公立大学768校の学長・総長を対象としたアンケートの結果から、東北大学は早稲田大学と並び、「コロナ禍で優れた対応を行っていると思う大学」ランキングの第1位に選ばれている。これは、入試広報活動に限った評価ではないものの、いち早く入試広報活動のオンライン化に取り組み、ステークホルダーに向けた積極的な情報発信を試みたことが、このような印象評価の一因となり得たのではと考える。

3.7.3 東北大学における入試広報活動の概要

3.7.3.1 東北大学における入試広報活動組織とその特徴

本学では、全学的な入試広報活動は学部入試関連の委員会で所掌されている。1999（平成11）年に設置された東北大学アドミッションセンター⁴⁾が中核となり、当該委員会で定めた計画に従って毎年の入試広報活動が展開されてきた。入試広報活動が入試の一環と位置付けられていることから、入試広報の目的が広い意味での学生募集であると明確に意識される組織構造になっている。本学では学部入試設計の一翼を担う活動として公認されていると言えるだろう。

本学では学部入試を教育の一環と捉えている。様々な入試広報活動を通じて、本学第1志望の受験生に対して、一般選抜前期日程試験を目標に据えつつ、そこに至るまでのステップとして「第1志望の受験生のための特別な入試機会」であるAO入試の受験を促している。ひいては、それ以前に各種の入試広報活動を通じて本学の魅力を伝え、その活動に触れることで第1志望の受験生を育成、獲得するというスキームが出来上がっている(倉元, 2011)。入試広報は受験生という特殊なクライアントに対する広報活動であるが、単なる大学広報の一部分と認識すると焦点が曖昧になる。入試広報活動を入試の一環として位置づけることのメリットは大きい。

事務組織の面でも全学的な広報を担うセクションとは独立に、当該委員会を所掌する部署として「教育・学生支援部入試課入試広報係」が置かれている。入試広報活動は委員会活動の一環として同係が管轄する。結果的に、受験生とその関係者が必要とする情報発信を機能的かつ効率的に遂行できる体制が整っている。

3.7.3.2 入試広報研究と学内広報の役割

入試広報の難しさは業務が際限なく広がってしまうことにある。学生確保のために惜しげもなく大学の資源を投入する入試広報活動を「全力投球型」とすると、費用対効果を重んじて活動を制御しつつ広報効果を求める入試広報活動は「省エネ型」と位置付けられる。予算や人員、時間が有限である以上、全力投球型の入試広報活動は総体として大学の活動を脅かし、機能不全に陥らせるリスクがある。注目を浴びる時期があっても長期間継続することはできない。本学の入試広報が長期に渡って高評価を受けてきた背景には、組織面の特徴と同時に持続可能な「省エネ型」の広報活動の設計と、大学全体として効率的な入試広報を実施するために欠かせない調査研究活動の存在がある。

東北大学アドミッションセンターおよび後継の入試開発室では、本学の機関研究として広報活動に関する研究成果の発信が断続的に行われてきた(鈴木・夏目・倉元, 2003; 倉元・三原・小野寺・鈴木, 2005; 倉元・山口・川又, 2007; 倉元, 2007, 2008; 倉元・泉, 2014; 久保・南・榎田・宮本, 2021a, b)。それと同時に必ずしも本学に特化しない、一般的な入試研究としての入試広報研究も行われてきた(倉元, 2005; 倉元・佐藤, 2006; 倉元・泉, 2014)。例えば、鈴木ほか(2003)はオープンキャンパスの黎明期に早くも進路選択に及ぼす影響について分析し、その有効性を評価している。さらに、倉元ほか(2005)では、一部の対象に集中的に濃密な大学体験を味わわせるイベントは、費用対効果の面で懐疑的な分析結果を出している。また、倉元(2007)では過去10年分の志願者・合格者の入試データを分析し、都道府県単位の地域区分によって効果的な広報活動のスタイルに違いがある可能性を示唆した。倉元・佐藤(2006)は、受験生が好む学部名称が新奇なものよりも伝統的なものであることから、受験生獲得を狙った看板の書き換えが総じて好ましい結果を産まないことを示した。機関研究を中心とした入試広報研究は、効果的な広報計画を立案する上で欠かせない。

一方、広範囲での大規模な入試広報活動の展開には、各学部を中心に多数の教職員や学生の協力が必要である。入試広報の実施が負担を伴うものである以上、実施者側の理解は欠かせない。大学の多忙化、予算縮減の中、一定の資源を割いて入試広報活動への協力を仰ぐには、広報効果の目に見えるフィードバックが必要である。本学の場合、大きな役割を果たし

てきたのが 2000（平成 12）年度入試から 20 年以上に渡って実施されてきた「新入学者アンケート」の存在である。調査結果から、オープンキャンパスを中心とした各種の入試広報活動の効果について委員会を通じて毎年報告を続けた結果、負担を理由に中核的な入試広報活動に消極的な意見が出ることは稀になってきた。学内に対する調査結果のフィードバックを「学内広報」と呼ぶとすれば、調査研究活動の一環として、効果的な広報活動の継続に向けた学内広報は非常に重要である。

3.7.3.3 本学における入試広報活動の種類

全学の委員会の下に本学主催で組織的に行われている入試広報活動は以下の 4 種類に整理されている。

1 つ目は「高校訪問」である。他の諸活動と比べて個別性が強く、内容は訪問機会によって異なる。主として高等学校の進路指導担当教員との情報交換と生徒に対する東北大学説明会が主な目的である。東北大学アドミッションセンターの設置と同時に 1999（平成 11）年度から開始された。稀に学部教員を伴う訪問もあるが、主として入試センター教員が担う広報活動である。

2 つ目は「入試説明会」である。高等学校の進路指導担当教員を対象とする。東北大学アドミッションセンターの設置の翌年、2000（平成 12）年度に開始された。地元の仙台会場を除き、学部からの参加はない。入試センターが実施する広報活動である。

3 つ目は「進学説明会・相談会」である。対象は主として受験生、保護者を中心としたものである。2006（平成 18）年度に開始された。全学部の協力の他、会場によっては他大学とも協力しながら実施している。

4 つ目は「オープンキャンパス」である。本学の入試広報のシンボルとなる活動であり、イベント内容は基本的に各学部に任されている。

その他、外部の機関が主催する入試説明会なども取捨選択しながら参加しているが、ここでは触れない。入試広報活動は通年で行われているが、5 月下旬から 8 月上旬が繁忙期である。主として高校側の事情によるが、専念すべき時期が限定されていることは、費用対効果の観点からは望ましい。

3.7.3.4 本学におけるオンラインを活用した入試広報活動

本学においても、2021（令和 3）年度入試に向けた入試広報活動は、COVID-19 の感染拡大防止の観点から計画の変更を余儀なくされた。2020（令和 2）年 4 月 7 日（火）に「新型コロナウイルス感染拡大防止のための東北大学の行動指針」（BCP）が制定され、これ以降、本学のあらゆる活動は、BCP に照らして判断されることになった。BCP では、当初、COVID-19 の感染状況を「0」～「5」の 6 段階（レベル）に分け、現時点では各レベルでの「研究活動」「授業」「出張」「学内会議」「学生の課外活動」「催事・イベント等」「事務体制」についての指針が定められている。

入試広報活動のうち、高校訪問については BCP の出張の指針に基づいて判断された。4 月中旬～5 月中旬は「レベル 4（原則禁止）」であったが、徐々にレベルが引き下げられ、6 月中旬に「レベル 1（出張先の感染状況を確認するなど注意が必要）」となった。これを受け、7 月より高校訪問が部分的に再開された。

一方、入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパスについては、「3密状態」が不可避であることから、早い段階から中止について検討され始めた。同時に、これらの入試広報が果たしてきた役割の大きさに鑑み、何らかの代替手段を用意することが喫緊の課題となった。その解決策として浮上したのが、オンラインによる実施である。オンラインの活用によって、移動制限のある高校生、受験生、保護者、高校教員に対して進路決定に必要な情報を提供することが期待された。入試説明会、進学説明会・相談会については5月の委員会で、オープンキャンパスについては6月の委員会で、オンラインによる実施が決定された。名称は、「オンライン入試説明会」、「オンライン進学説明会・相談会」、「オンラインオープンキャンパス」となった。オンラインによる実施は、いずれの入試広報活動においても初めての試みである。

以下では、先に挙げた4種類の入試広報活動について、これまでの経緯を概説し、2020（令和2）年度における新たな取り組みの成果を報告する。

3.7.4 高校訪問

高校訪問は高校教員と円滑なコミュニケーションを結び、本学の入試に理解を深めてもらう貴重な機会となっている。入試広報活動の基本であり、広報計画を設計するうえで大切な活動である。入試センターの高校訪問は単に入試情報や広報資料を高校側に届けることだけが目的ではない。最低授業1コマ分程度の時間を割いて、主として進路指導主事を中心とする教員との懇談を行う。その機会に生徒向けの進学説明会や個別相談会といった企画が実施されることも多い。高校訪問は高校関係者と人間関係を構築し、高等学校に人的なネットワークを築いていく貴重な機会である。長年継続していくことによって、高校との信頼関係を醸成していく効果が期待される。入試を中心とした本学の教育の安定した基盤づくりに寄与するものである。

図1は1999（平成11）～2020（令和2）年度に入試センターで行った高校訪問件数である。件数としてはアドミッションセンター時代の2003（平成15）年度に最初のピークを迎えた。年度途中で「平成15年度教育共同プロジェクト（総長裁量経費）新学習指導要領の下での高等学校のカリキュラムに関する実施調査」が採択され、一部経費を高校個別訪問による実地調査に活用したことによる。経費は中部地方、関西・山陰地方、沖縄地方といった、それ以前はあまり訪問機会がなかった地域の高校の訪問に充てられた。

その後、件数としてはやや落ち込んだが、2011（平成23）年度には3月に発生した東日本大震災による本学志願への悪影響を懸念して措置された予算に基づく訪問活動が年度後半に行われた。緊急対応的な意味が強く、通常の年度の活動とは性格をやや異にしている。2015（平成27）年度まで入試センターは専任教員3名という限られた人員であり、再び件数の上では低迷していたが、2016（平成28）年度に新たなスタッフが加わったことで、高校訪問活動が再び活性化した。

2019（令和元）年度には、過去の高校訪問記録をデータベース化し、訪問計画の策定と訪問の際の資料の準備を効率化する体制が整った（榎田、2021）。

2020（令和2）年度は、COVID-19の感染拡大防止のため、遠方への訪問を自粛したことから、東北地方に所在する3校のみに留まった。

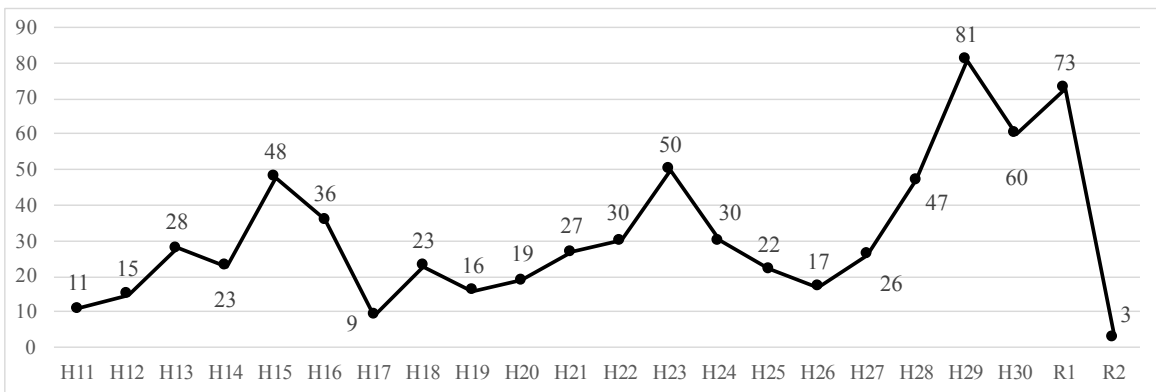


図1. 個別高校訪問件数

3.7.5 入試説明会

3.7.5.1 入試説明会の経緯とこれまでの実施概要

当初は前年から始められたAO入試に関する情報を従前から行われていた推薦入学⁵⁾とともに幅広く届ける目的で始められた。当初から主として進路指導担当教員を対象とした企画として構想されていたものの、そのコンセプトが固まるまでには試行錯誤があった。現在は受験生、保護者を対象とするイベントは「進学説明会・相談会」と呼んで区別されている。

仙台会場については2007（平成19）年度から分科会方式を採用して学部教員による当該学部の入試紹介の機会と位置付けた。それ以外の会場を入試センター教員が担当し、現在に至っている。

入試説明会は、当初、東北大学型の「学力重視のAO入試」を広くアピールする機会と位置付けられたが、現在は本学の学部入試全体の考え方を説明する機会として活用されている。同時にその時点で起こっている入試関係の問題状況について来場した高校教員と意見交換をする場としても活用されている。高校訪問や長期にわたる関係性構築のきっかけとなる場合もある。

来場する高校教員のキャリアや知識レベルは様々である。公立高校の教員であれば、転勤による入れ替わりや校務分掌の交代がある。日程によっては参加人員のやりくりも必要となる。高校側には新人研修として活用してもらうことも勧めている。説明側も経験の浅い教員でも十分に内容が理解できるように、基本的な事項から分かりやすく伝えることを心がけている。

2002（平成14）年度以降は、会場と会場ごとの参加者数の記録が残っている。開催都市にはそれぞれ特徴がある。仙台会場は2007（平成19）年度に全国唯一の学部ごとの説明会場と位置付けられてから、急激に参加者数が伸びた。地元の宮城県のみならず、近県を中心に一校当たり複数の教員で参加して、同時並行で行われている各学部のセッションから情報を得ようとする傾向がみられる。仙台会場以外では、固定されている会場と実験的に設けられた会場、一度中断して再開された会場がある。参加者数が伸び悩む会場もあるが、以前よりは実際に志願者を輩出する参加校から教員が参加する傾向が見られる。むしろ、説明会の内容が徐々に洗練され、充実してきていることが感じられる。

表 1. 入試説明会会場及び参加教員数

開催都市	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1
札幌	—	24	12	14	20	19	16	14	16	16	22	17	18	21	22	26	13	22
青森	28	22	20	24	29	29	18	27	23	18	18	14	13	13	9	—	7	10
弘前	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	—	—
盛岡	31	29	35	31	19	23	22	14	13	30	23	14	8	15	16	14	23	22
仙台	42	41	39	43	48	86	155	207	189	178	199	214	227	223	220	209	204	232
秋田	15	15	8	13	11	16	11	13	15	18	13	12	11	13	11	16	18	21
山形	21	20	16	22	22	23	—	—	—	—	—	—	—	7	3	17	7	11
郡山	49	22	22	27	20	10	—	—	—	—	—	—	—	37	5	28	16	12
水戸	16	—	11	16	20	23	19	17	21	25	19	17	19	19	20	21	15	17
土浦	—	<u>15</u>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宇都宮	—	<u>23</u>	21	24	26	17	20	22	21	21	17	15	17	16	24	17	17	24
高崎	—	<u>14</u>	13	16	18	19	17	17	21	19	18	18	18	19	22	29	19	27
さいたま	—	—	—	—	16	13	10	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
東京	—	—	—	—	—	—	—	36	39	25	33	34	42	48	49	47	33	49
新潟	9	11	14	19	23	15	21	27	23	22	22	18	20	22	21	20	29	20
金沢	—	20	21	10	10	11	10	8	5	7	4	5	10	4	8	9	9	6
甲府	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	6	9	7	7	8	9	9
長野	10	—	7	12	8	9	10	12	16	11	11	13	12	11	11	12	15	13
松本	—	<u>11</u>	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
静岡	16	15	17	15	13	15	14	11	16	11	11	10	12	16	13	14	10	9
名古屋	22	—	—	—	—	—	17	16	11	12	7	8	7	8	14	14	8	16
大阪	27	—	—	—	—	7	10	15	9	9	14	11	16	12	14	16	17	19
松江	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
岡山	—	—	—	—	—	—	9	10	8	8	7	7	8	10	4	6	6	8
広島	—	—	—	—	—	—	—	—	10	6	6	3	13	5	5	7	5	4
福岡	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11	6	6
那覇	—	—	7	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	286	<u>282</u>	263	291	303	335	379	467	456	436	451	436	480	526	498	552	486	557

注: 2003 (平成 15) 年度は一部の記録が残っておらず, 下線 (イタリック) の会場は参加予定数

3.7.5.2 オンライン入試説明会

7月1日(水)より参加申込を開始し, 説明会は7月13日(月)から8月7日(金)の期間に計41回企画した。従来の対面型の入試説明会をオンラインで再現するという観点から, オンライン入試説明会では全国を11のブロックに分けて説明会を実施した。1回の説明会を「セッション」と呼び, 1セッション当たりの時間は質疑応答を含め60分, 定員は20名とした。オンラインビデオ会議のツールとして, Zoomを使用した。ブロック区分および各ブロックのセッション数は表2に示した。

東海ブロックおよび全国ブロックのそれぞれ1セッションでは, 申込者が0名であったため, 実施したセッションは39回であった。申込者数の総計は273名で, 194校から226名の参加があった。なお, 前年度の入試説明会の参加者数は557名であったが, このうち232名が仙台会場への参加者であった。仙台会場では, 入試センター教員だけでなく各学部の教員も参加して個別の入試解説も行っていることから, 例年全参加者数の約4割を占める。このような仙台会場特有の事情や, オンライン入試説明会では, 同一高校からの申込み可能人数を1回のセッションにつき2名(2回線)までに制限したことを考慮すると, オン

ラインでも概ね例年と同程度の参加者を確保できたと評価できる。

表2. オンライン入試説明のブロック区分とセッション数

ブロック	都道府県	セッション数
北海道	北海道	2
北東北	青森, 秋田, 岩手	4
宮城	宮城	6
南東北	山形, 福島	3
北関東	茨城, 栃木, 群馬, 埼玉	4
南関東	千葉, 東京, 神奈川, 山梨	4
北信越	新潟, 長野, 富山, 石川	3
東海	静岡, 愛知, 岐阜, 三重	3
近畿	滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山	2
中国四国	鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口, 徳島, 香川, 愛媛, 高知	1
九州沖縄	福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄	1
全国	全てのブロックから参加可能, 7月20日(月)付で追加	8

オンライン入試説明会の参加者には、実施時期や曜日・時間の適切性、説明のプレゼンテーションのわかりやすさ等を尋ねた事後アンケートへの回答を求めた。質問項目は、従来の入試説明会で実施してきたアンケートと同一とし、今回はウェブ上で回答してもらった。アンケートへの回答者数は152名（回収率67.3%）であった。

アンケートの結果では、いずれの項目に対しても、肯定的な回答が9割以上であった。自由記述項目では、オンラインならではのメリットに言及し、今後も継続を望むコメントが複数見られた。従来から、できるだけ多くの高校に参加してもらえるよう、全国に会場を設けて入試説明会を実施してきたが、地域による交通の利便性の差は大きく、特に地方会場では移動にかかるコストは大きい。2020（令和2）年度オンライン入試説明会で得られた情報をエビデンスとして、2021（令和3）年度以降も、対面型の入試説明会と並行してオンラインでの実施を継続する予定で準備を進めている。

3.7.6 進学説明会・相談会

3.7.6.1 進学説明会・相談会の経緯と他大学との連携

東北大学進学説明会・相談会⁶⁾は2006（平成18）年度からの東京会場を皮切りに2007（平成19）年度から大阪、2010（平成22）年度から札幌、2016（平成28）年度から静岡、2018（平成30）年度から福岡と広がり、2019（平成31）年度から仙台会場が開始された。開催都市は仙台を除き、倉元（2007）で高校訪問による効果的な入試広報が難しいとされた「シティ」に属する都道府県である。東京会場と仙台会場は当初から本学単独開催の構想で始まったが、他の会場は他大学との共催が模索されてきた。大阪会場は当初は単独開催であったが2年度目から他大学と共催となった。共催方式を採ったことで参加者数が大幅に増え、会場が維持できたという経緯がある。札幌会場と静岡会場は当初から他大学との共催である。共催大学を表3に示す。2018（平成30）年度開始の福岡会場⁷⁾は単独開催として始まっているが、他大学との共催を目指している。

表 3. 進学説明会・相談会共催大学

	大阪会場	札幌会場	静岡会場
H20	北大, 筑波大, 九大	—	—
H21	筑波大, 九大	—	—
H22	筑波大, 九大	筑波大	—
H23	筑波大, 九大	新潟大, 筑波大	—
H24	筑波大	新潟大, 筑波大	—
H25	筑波大, 九大	新潟大, 筑波大	—
H26	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—
H27	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大	—
H28	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大
H29	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大
H30	筑波大	新潟大, 筑波大	新潟大, 筑波大
R1	筑波大	筑波大, 宮教大 新潟大, 金沢大	筑波大, 山形大 福島大, 新潟大

共催問題が生じるのは、本学の訴求力の問題である。仙台と東京を除く多くの都市では単独開催とした場合の参加者数に不安が残る。受験生の立場から見て類似した大学との共同イベントとすることで参加者数の向上が期待される。2019（令和元）年度からは、担当者一人でも参加可能な形態で多数の共催大学を募る方式を開始した。その矢先に COVID-19 に見舞われ、2020（令和2）年度の計画は全て中止となった。参加者数、来場者数の変遷は図2の通りである。折れ線グラフ（人数は左側の軸）で表示した「延べ参加者数」は本学関連イベントに参加した者のみカウントしている。棒グラフ（右側の軸）の「来場者数」には他大学関連イベントのみに参加した者も含まれる。

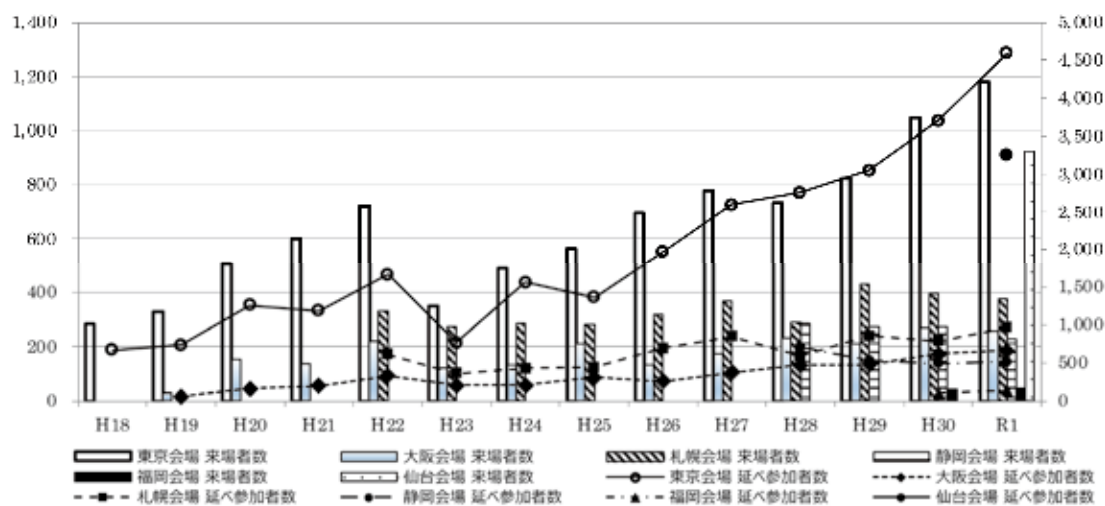


図 2. 進学説明会・相談会参加者数

2011（平成 23）年度には東日本大震災の影響を受け、東京会場で急激な参加者数の減少が見られたが、その後、回復してさらに拡大基調となっていた。

実際には東京と札幌の参加者の動向は異なっている。東京には様々な高校から参加者が集まっているのに対し、札幌は参加者の所属校が限られているが、本学への志願者数が多い

高校を中心に集まっており、マッチングの状況が良い。一方、大阪は参加者数、マッチングともに芳しくなく、静岡はマッチングの状況が年々悪くなっている。福岡、仙台は開始したばかりなので、まだ定量的な分析はなされていない。今後、会場の見直しがあるとすれば、参考になる指標と思われる。

3.7.6.2 オンライン進学説明会・相談会

6月1日(月)にオンライン進学説明会・相談会の特設サイトをオープンした。掲載内容は「東北大学総長からのメッセージ」「大学説明&入試解説」「質問 BOX」から成る「オンライン進学説明会特別コンテンツ」、10学部それぞれの「学部紹介」、奨学金・寄宿舎・アルバイト等の情報をまとめた「入学後の生活」、大学案内・入学者選抜要項等の「入試に関する資料」、閲覧者から「質問 BOX」に寄せられた質問に答える「よくある質問 Q&A」、そして「アンケート」であった。

なお、オンライン進学説明会・相談会の特設サイトは、主として「説明会」の役割を代替するものであり、「相談会」は、オンラインでリアルタイムに参加できるイベントである「ライブイベント」として実施した。2021(令和3)年1月9日(土)には、東北大学入試センター主催でオンライン進学説明会を、1月9日(土)・10日(日)にはオンライン進学相談会を実施した。

また、今後の入試広報の国際展開を視野に入れ、一部のコンテンツについては中国語版と韓国語版も作成した。本学の留学生の半数以上が中国からであり、次いでインドネシア、韓国となっていることから、進学説明会・相談会のオンライン化に伴い、まず中国と韓国にターゲットを絞り、情報の発信を試みた。具体的には「東北大学総長からのメッセージ」「教育・学生支援担当理事挨拶」、10学部のそれぞれの「学部紹介(学部長挨拶を含む)」の動画に関して、中国語と韓国語の字幕版を作成した。また、大学説明に関しては、中国語と韓国語の吹き替え版を作成した。

2020(令和2)年6月2日から2021(令和3)年3月31日までの特設サイトの延べページビュー数は153,162、延べ訪問者数は52,077であり、「大学説明&入試解説」「よくある質問 Q&A」「東北大学総長からのメッセージ」、そして「学部紹介」では工学部、理学部、医学医学科、文学部のページが特に多く閲覧されていた。海外からの訪問者数に関して、表4に示した。

表4. オンライン進学説明会・相談会への海外からの訪問者数

順位	国・地域	訪問者数
1	アメリカ	149
2	中国	118
3	台湾	23
4	香港	17
4	シンガポール	17
6	韓国	14
7	ドイツ	12

3.7.7 オープンキャンパス

3.7.7.1 オープンキャンパスの誕生と成長

東北大学オープンキャンパスは、1982（昭和 57）年に工学部の金属系 3 学科が学科公開を行ったのが起源と考えられている。1995（平成 7）年には、工学部の全学科（17 学科）が参加して公開行事が行われ、その後、青葉山キャンパスに位置する理学部、薬学部が追随した。高校側の希望と学内からの要請もあり、1998（平成 10）年には全学で説明会や公開授業が行われた（東北大学百年史編集委員会，2009:402）。さらに、その翌年、1999（平成 11）年度より「東北大学オープンキャンパス」として全学部が参加する全学的イベントとなった。

開催日は当初から 7 月末の平日 2 日間である。開催日決定規則が明確に定められていることから、数年後まで自動的に決まっている。イベント開催部局の予定を立てやすくし、参加を希望する高等学校等への周知を容易にするためには重要な条件と言える。

図 3 に示すようにオープンキャンパスの規模は年々拡大している。参加者数で当初の 10 倍以上の規模に達し、2019（令和元）年度には全国一となった（朝日新聞出版，2020: 369）。実際には正確な参加者数の把握は困難だが、近年は 1 人の参加者につき 2 日間の開催日を通じて全学の資料を 1 つのトートバッグで収めて渡すことでカウントしている。中にはルールに違反して複数のバッグを受け取る参加者もいるだろうが、家族連れなど複数で参加する場合には 1 人が代表して受け取る場合もある。工学部や理学部は、広大なキャンパスに分散して学科受付を設けている。相当数が学科受付に行くが、総合案内を通らなければ数え落としとなる。著しい過大推定にはなっていないと思われる。

本学のオープンキャンパスは完全自由参加制で、事前登録や人数制限を加えてこなかったことが特徴であり⁸⁾、規模拡大を可能にした秘訣である。開催内容は学部主導で決まるので、学部、学科ごとに知恵を凝らした工夫がみられる。結果的に参加者は受験生以外にも広がり、多様な層が参加を楽しみにする祭のような雰囲気イベントとなっている（河本，2009: 182-184）。

オープンキャンパスの実施負担は膨大であり、当然ながら、日常の研究・教育活動に支障が出ると不満が生まれるのは当然である。それがここまでの規模になってきたのは、それだけの負担を負っても実施するかいがあることを示すエビデンスが存在するからである。

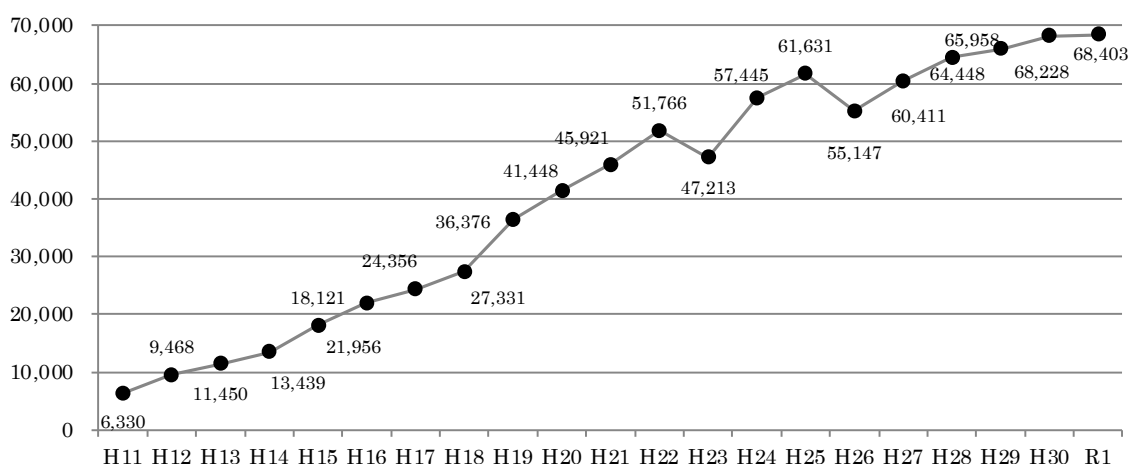


図 3. オープンキャンパス参加者数の変遷

3.7.7.2 オンラインオープンキャンパス

従来のオープンキャンパスでは、各部局の自由裁量で独自の内容が企画実施され、入試センターはそれらを一覧できるパンフレットを作成してきた。オンラインオープンキャンパスにおいても、このシステムを踏襲した。すなわち、入試センターがポータルサイトを立ち上げ、各部局のウェブサイトにはリンクを貼り、誘導することとした。その際、各部局には、①独自のウェブサイトを立ち上げる方式と、②入試センターが外部委託した共通デザインのウェブサイトにコンテンツを提供して掲載する方式、のいずれかを選択できるようにした。独自のウェブサイトを立ち上げたのは、理学部、工学部、薬学部、農学部の4学部であった。

オンラインオープンキャンパスには、川内キャンパスからは14部局、青葉山キャンパスからは11部局、星陵キャンパスからは4部局が参加した。さらに、これまでオープンキャンパスには参加してこなかった片平キャンパスに所在する教育・研究施設等にも参加を呼びかけた。その結果、6つの部局が参加することになった。参加部局は総計35部局であった。ウェブサイトの本格オープンは7月29日（水）であった。

2020（令和2）年7月29日から2021（令和3）年3月31日までのオンラインオープンキャンパスサイトの延べページビュー数は271,613、延べ訪問者数は76,278であった。海外からの訪問者数は、表5の通りであった。

表5. オンラインオープンキャンパスへの海外からの訪問者数

順位	国・地域	訪問者数
1	アメリカ	410
2	中国	211
3	台湾	46
4	シンガポール	29
4	韓国	28
6	香港	21
7	イギリス	20
8	オーストラリア	16
9	タイ	14
10	ベトナム	12

3.7.7.3 オンラインオープンキャンパスの広報効果

先述の「新入学者アンケート」の内容は、主として入試区分に関する項目と入試広報に関する項目から成っており、初年度から調査目的に大きな変化はない。オープンキャンパスの参加状況については2回目（2001 [平成13] 年度入学者対象）から同一内容で質問していたが、2021（令和3）年度入学者を対象とした調査⁹⁾では、オンラインオープンキャンパスやオンライン進学説明会・相談会等、オンラインでの広報活動に対応するように項目の改定を行った。

2021（令和3）年度入学者を対象とした新入学者アンケートの回収率は98.7%であった。2021（令和3）年度入学者（回答者）のうち、オンラインオープンキャンパスを閲覧した者の割合は31.2%であった。図4には、2018（平成30）年以降の新入学者について、前年度のオープンキャンパスに参加、あるいは閲覧した者の割合を地域別に示した。なお、2019（令

和元)年度入学生で、初めて東北からの入学者数を関東からの入学者数が上回った(東北34.5%、関東37.7%)ものの、その後、両者の差は2~5%程度に落ち着いており、2018(平成30)年度以降、入学者の出身地域の分布に大きな変動はない。図4に示した2021(令和3)年度のオンラインオープンキャンパスでは、元来から入学者数の多い東北や関東では劇的な変化は見られなかったが、より遠方の近畿、四国、九州、さらには海外からの入学者では、従来の対面でのオープンキャンパスへの参加に比較して、オンラインオープンキャンパスを閲覧した者の割合が増加している。すなわち、地理的な条件により、対面でのオープンキャンパスへの参加が難しい地域の志願者に対しては、オンラインでの実施が有効であることが確認された。

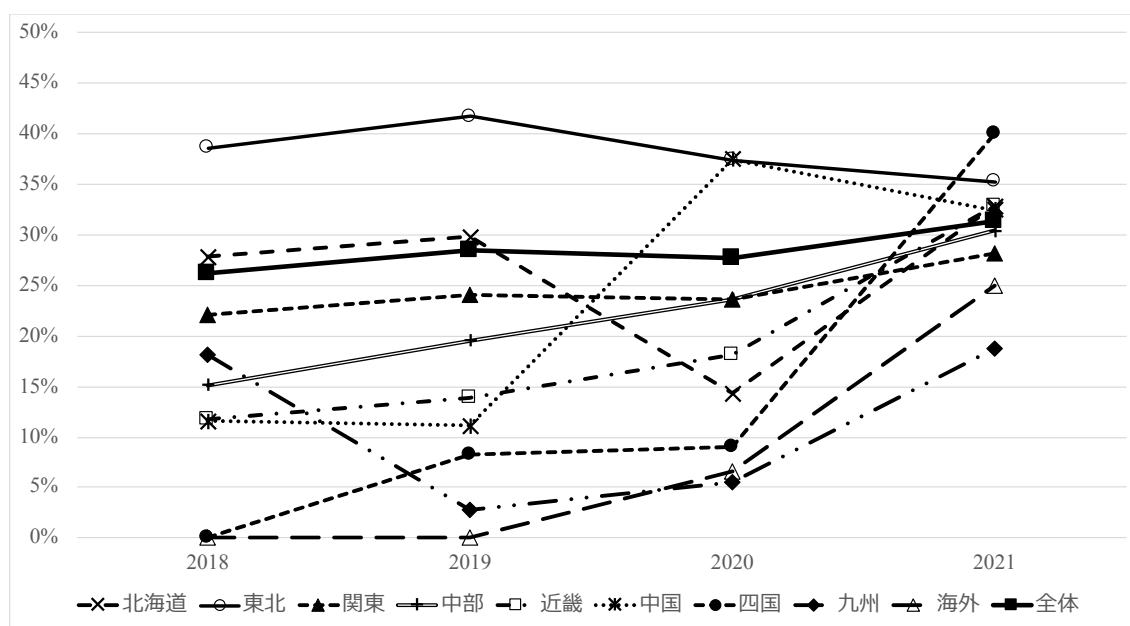


図4. オープンキャンパスに参加(閲覧)した新入学者の割合に関する地域別比較

入学した年の前年度における本学オープンキャンパスへの参加・閲覧が、入学した学部(学科)への志望決定にどの程度意味があったかを尋ねた項目への回答を表6にまとめた。近年、オープンキャンパス参加者のうち約9割が「決め手となった」あるいは「参考になった」と回答していたが、オンラインになっても82%が同様の回答をしていた。しかしながら、「決め手となった」の割合は対面での実施に比較して大きく減少していることから、進路選択の決定打としては、キャンパスに来訪しての直接的な体験が不可欠である可能性が示唆された。

表6. オープンキャンパスへの参加・閲覧が志望決定に与えた影響(参加者比)

入学年度	決め手となった	参考になった	あまり関係なかった	全く無関係
2018	35.5%	53.4%	9.4%	1.8%
2019	33.8%	54.6%	8.6%	3.0%
2020	39.2%	51.1%	7.4%	2.3%
2021	9.6%	72.0%	14.1%	4.2%

3.7.8 まとめ

入試広報活動のあり方は、COVID-19 の出現で一気に大きな変化を遂げることとなった。オンライン化の趨勢は今後も変わらないだろう。その一方で、オンライン授業等の経験から、キャンパスで行われる各種の大学の営みの重要性も見直されつつある。入試広報活動においても、従来からの対面型、学内型の活動と、刻々と進化を続ける発信型の活動の特徴を見出し、相補的に効果的なベストミックスを探ることが求められる。今後の展開は COVID-19 の収束状況と社会的な位置づけに大きく左右されることになるだろう。今後の見通しを立てるのは時期尚早であることから、当面は両方の準備が求められることになるだろう。

時代の趨勢とは言え、入試広報活動は大学にとって必要欠くべからざる営みであると同時に、大きな負担でもある。多くの構成員にとっては本務とは違う雑用の一種とみなされても仕方がない位置づけにある。一方、少なくとも参加者の一部は進路探索のための手がかりを真剣に探っているのであるから、いい加減な対応は逆に大学の評判を落とすことになる。実施する側のモラルを喚起し、入試広報の質を向上させるためには、効果のフィードバックが重要な鍵を握る。入試広報活動の効果の定量的分析と学内広報は、今後も実施と不可分で欠かせない位置づけに置かれることだろう。

予測の難しい、振れ幅の大きな状況の中で、これまでの経験がどの程度通用するのか。的確な状況分析と柔軟な対応力が求められていると言えそうだ。

注

- 1) 本項の内容は、倉元・宮本・久保・南（2020）から主要部分を抜粋し、一部を加筆修正するとともに、第34回東北大学高等教育フォーラムにおける基調講演2（久保, 2021）の内容を加え、構成したものである。
- 2) 大学が行う広報活動の中でも、受験生に向けた情報発信は、他の広報活動とは区別して「入試広報」と呼ばれている。
- 3) 2017年版から「情報開示に熱心」と表現が変わっているが、実質的に同じことを意味している。ただし、2022年版では該当する項目がなくなった。
- 4) 当時。2度の改組を経て、現在は、主として専任教員の所属組織である東北大学高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室と、特任教員を含む実施組織としての東北大学入試センターに組織上は分けられている。なお、2021（令和3）年度現在、化学、生物、英語、国語の特任教授計4名が入試センターの所属となっている。基本的に調査分析及び研究活動は入試開発室、広報活動の実施は入試センターの業務として位置付けられている。
- 5) 現在は「学校推薦型選抜」。本学では2014（平成26）年度の農学部を最後に推薦が廃止された。
- 6) 2016（平成28）年度までは進学説明会。2017（平成29）年度から個別相談をより強調する目的で「進学説明会・相談会」と呼ぶこととなった。
- 7) 初回は工学部主催。
- 8) イベントによっては、開催当日に参加予約や人数制限を設ける場合もある。
- 9) 前年度までは質問紙による調査であったが、2021（令和3）年度入学者を対象とした調査では、質問紙による回答とWebによる回答を任意で選択できるように変更した。

文献

- 朝日新聞出版 (2020). 『大学ランキング2021年版』.
- 朝日新聞出版 (2021). 『大学ランキング2022年版』.
- 檜田豪利 (2021). 「学校訪問データベースの制作と活用—戦略的な広報活動を目指して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **7**, 291-297.
- 河本敏浩 (2009). 名ばかり大学生—日本型教育制度の終焉—, 光文社新書.
- 久保沙織 (2021). 「オンラインを活用した東北大学入試広報活動の新たな展開」第34回東北大学高等教育フォーラム 基調講演 2, 2021年5月17日.
- 久保沙織・南紅玉・檜田豪利・宮本友弘 (2021a). 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』 **31**, 394-400
- 久保沙織・南紅玉・檜田豪利・宮本友弘 (2021b). 「オンラインによる入試広報の展開—『オンライン進学説明会・相談会』の実践を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 **7**, 57-65.
- 倉元直樹 (2005). 「ヴァージニア大学における入学者選抜と広報活動」『教育情報学研究』 **3**, 113-124.
- 倉元直樹 (2007). 「東北大学入試広報戦略のための基礎研究 (1) —過去10年の東北大学入試データから描く「日本地図」—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 **2**, 9-22.
- 倉元直樹 (2008). 「東北大学入試広報戦略のための基礎研究 (2) —過去11年の志願動向に見る各募集単位の特徴—」『東北大学高等教育開発推進センター紀要』 **3**, 63-76.
- 倉元直樹 (2011). 「大学入試の多様化と高校教育—東北大学型『学力重視のAO入試』の特徴—」東北大学高等教育開発推進センター編『高大接続関係のパラダイム転換と再構築』 7-40.
- 倉元直樹・泉毅 (2014). 「東北大学工学部AO入試受験者にみる大学入試広報の効果—その意義と発信型, 対面型広報の効果—」『日本テスト学会誌』 **10**, 125-146.
- 倉元直樹・佐藤洋之 (2006). 「高校生の大学イメージ」『大学入試研究ジャーナル』 **16**, 179-185.
- 倉元直樹・三原毅・小野寺淑行・鈴木敏明 (2005). 「大学体験と学習意欲」『大学入試研究ジャーナル』 **15**, 1-7.
- 倉元直樹・山口正洋・川又政征 (2007). 「受験生からみた東北大学工学部のAO入試」『大学入試研究ジャーナル』 **17**, 43-49.
- 倉元直樹・宮本友弘・久保沙織・南紅玉 (2020). 「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」『教育情報学研究』 **19**, 55-69.
- 鈴木敏明・夏目達也・倉元直樹 (2003). 「オープンキャンパスとAO入試」『大学入試研究ジャーナル』 **13**, 7-10.
- 寺下榮・村松毅 (2009). 「東海・北陸地区国立大学—入試広報の取組②—エリア別志願者の受験行動に関する調査—」『大学入試研究ジャーナル』 **19**, 145-150.
- 東北大学百年史編集委員会編 (2009). 『東北大学百年史十一 資料四』, 東北大学.

4. 入試センター教員の活動

入試センターは、本務として高度教養教育・学生支援機構高等教育開発部門入試開発室に所属する教員に加え、平成28年度からセンター専任の特任教授が配属されている。

入試開発室教員は、大学入試についての全般的研究を行い、我が国の入試改革への貢献を期するとともに、東北大学の入試に関しての具体的調査研究（追跡調査、入試方法・評価の検討等）を行い、その改善方策を検討している。科研費や学内資金によって、測定評価、選抜方法などについて、諸外国との比較研究を交え、様々な面からの研究を進めている。AO入試は各学部が主体的に企画・実施しているが、入試開発室はそうした調査研究をもとに各学部のシンクタンクないしはコンサルタントの役割を担っており、「学力重視のAO入試」というコンセプトを学部共通に確立している。

特任教授は、高等学校教員の経歴を有し、東北大学入試の作題支援、東北大学入試の改善に関する調査研究や入試広報活動の企画・実施、高大接続事業の企画・実施等における高校との連絡調整、また入試業務（高校の実態を踏まえた提出書類の解釈・評価、提出書類の設計、面接試験等についての助言）等を行っている。

以下は令和2年度における入試センター教員の主な活動実績である。

4.1. 東北大学入試の中長期的な企画・改善検討

具体的には、入試企画・広報委員会における検討、本学入試・国内外入試の調査研究、追跡調査、受験者・入学者へのアンケート、入試情報の提供、部局への助言・コンサルテーション、国大協・入研協等の外部組織・他大学・高等学校との連携・情報交換等がその中身である。

4.1.1. 全学的委員会におけるワーキング・グループ

学部入試関連の全学的委員会組織の下にワーキング・グループを置き、広報関連の実務（『大学案内』『AO入試パンフレット』『入学者選抜要項』『学生募集要項』の編集等）、入学者選抜の企画・実施における全学支援体制の構築を行うとともに、高校調査等に基づき、以下のような項目について令和3年度（2021年度）入試への対応を検討した。

(1) 入学者選抜における新型コロナウイルス感染症への対応

- ① 令和3年度（2021年度）入学者選抜日程の検討・調整
- ② 令和3年度（2021年度）入学者選抜要項の公表時期の検討・調整
- ③ 高等学校等の臨時休業等による学習の遅れへの配慮に関する検討
- ④ 令和3年度（2021年度）入試の実施における新型コロナウイルス感染症への対応方針の検討・決定
- ⑤ AO入試及び特別入試の実施方法に関する検討
- ⑥ 大学入学共通テストの第1日程・第2日程・特例追試験への対応に関する検討
- ⑦ 一般選抜の追試験に関する検討
- ⑧ 各種資格・検定試験の中止又は延期に対する措置の決定

(2) 入試広報活動における新型コロナウイルス感染症への対応

- ⑨ 入試広報活動（入試説明会、進学説明会・相談会、オープンキャンパス）のオンライン実施
- ⑩ オンラインによる入試広報活動の推進体制の構築

- ⑪ 講師派遣のオンライン対応に関する検討
- (3) その他
 - ⑫ A O入試Ⅱ期における実施本部体制の整備
 - ⑬ A O入試Ⅱ期第1次選考筆記試験における採点応援全学体制に関する検討
 - ⑭ A O入試におけるインターネット出願及び成績通知の改善に関する決定
 - ⑮ 令和3年度(2021年度)入試に向けた英語による「話す能力」の評価に関する決定
 - ⑯ 令和3年度(2021年度)東北大学新入学者対象アンケートの項目改訂に関する決定
 - ⑰ 入学者選抜要項の表現統一
 - ⑱ 大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止に関する検討

4.1.2 本学入試関連調査・分析及び学内支援等

例年実施している新入学者へのアンケートについて、一部項目の見直しを行った上で入学者の動向を分析した。回収率は98.2%。

国立大学アドミッションセンター連絡会議においては会長、事務局長を引き受け、ウェブサイトを立て上げた。国立大学間の連携・情報交換の基盤を整備した。

県内高等学校との連絡協議会を開催し、入試に関する情報交換を行った。

部局入試検討委員会の委員・オブザーバーとなり、A O入試実施に関わる助言・実施協力を行うほか、文学部、教育学部、法学部、経済学部、医学部(医学科、保健学科)、歯学部、薬学部、農学部など各学部(部局)のA O入試等に関する相談対応・助言、また、国際学士コースの入試について国際学士コース入試小委員会などを通じた助言を行った。

政策的な高大接続改革方針に対応した多面的・総合的評価による入学者選抜を本学においても取り組み、A O入試を定員の30%に拡大する方針に基づき、令和3年度入試でKPIである入学定員比30%を達成した(31.6%)。KPI達成のために、入試企画・広報委員会やA O入試懇談会等で各学部と協議、全学支援体制の強化(A O入試Ⅱ期・Ⅲ期の実施本部体制拡充、入試関連FDの実施、入試ミス防止支援等)を進めた。

4.1.3 入試研究と成果の公表

日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(A)「高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価(課題番号16H02051,平成28年度～令和2年度)」および日本学術振興会科学研究費補助金挑戦的研究(開拓)「『大学入試学』構築への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて——(課題番号20K20421,令和元年度～令和4年度)」を継続して実施し、ウェブサイトを通じて研究成果を公開した。これらと連動して、高大接続改革やコロナ禍の下での入試に関する調査研究を実施し、研究成果を公表した。全国大学入学者選抜研究連絡協議会(入研協)は中止となったが、予稿集に3件の研究発表論文が掲載された。

上記科研費による研究成果について、東北大学大学入試研究シリーズ第4巻として出版の準備を進めた(令和3年度刊行済)。また、シンポジウム(東北大学高等教育フォーラム)を開催し、その成果について東北大学大学入試研究シリーズ第5巻として出版の準備を進めた(令和3年度刊行済)。

4.2. 入学者選抜の実施

東北大学入学試験実施に関する構成員、入試関連の全学的委員会の構成員として以下のような活動を行った。

- ① 入試実施等に係る業務（大学入学共通テスト、一般選抜前期・後期日程における試験監督、作題支援等）
- ② 全学的な入試関連各種委員会の委員
- ③ AO入試Ⅱ期実施（志願者1,105名、合格者276名）前年比志願者100名増
- ④ AO入試Ⅲ期実施（志願者865名、合格者370名）前年比志願者192名減
- ⑤ 医学部医学科地域枠入試実施（志願者20名、合格者8名）
- ⑥ 科学オリンピック入試実施（志願者1名、合格者0名）
- ⑦ 国際バカロレア入試実施（志願者4名、合格者1名）
- ⑧ 帰国生徒入試実施（志願者19名、合格者9名）
- ⑨ 私費外国人留学生入試実施（志願者63名、合格者10名）前年比志願者46名減
- ⑩ 一般選抜（前期日程）実施（志願者4,499名、合格者1,714名）前年比志願者115名増
- ⑪ 一般選抜（後期日程）実施（志願者1,251名、合格者116名）前年比志願者103名減

4.3. 入試広報活動

入試広報活動として、高校生・高校教員・保護者対象の説明会開催、高校等主催の説明会・相談会への参加、高校訪問・高校教員との懇談会、冊子・ウェブサイト等による入試情報の提供、学内への情報提供等を実施した。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年対面で実施していた入試説明会及び進学説明会はオンラインでの実施とした。

- ① オンライン入試説明会（高校教員対象）を39回実施 参加者 226名（38都道府県）（前年実績557名）
- ② オンライン進学説明会（受験生・父兄対象）ウェブサイト開設 訪問者52,077名（前年実績3,010名）
- ③ 高校の大学見学の対応 1件
- ④ 民間業者等開催のオンライン説明会（高校教員との懇談会含む）4件
- ⑤ 高校訪問3校（入試センター教員分）
- ⑥ 東北大学案内の作成 35,000部発行
- ⑦ AO入試パンフレットの作成 7,000部発行
- ⑧ 入試センターウェブサイトによる情報の発信

4.4. 高大接続・連携事業

フォーラム開催、出前授業等の企画・学部支援、オープンキャンパスの企画開催・全学支援等を行った。ただし、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、フォーラムはオンラインと対面のハイブリッド方式で実施、オープンキャンパスはオンラインでの実施とした。

- ① 第32回東北大学高等教育フォーラム（9月12日、当初予定は5月21日）「大学入試を設計するー『大学入試研究』の必要性和その役割ー」、参加者375名（オンライン参加284名、来場参加91名）（前年比4名増）
- ② オープンキャンパスウェブサイト開設 訪問者76,278名（前年実績68,403名）、令和2

年度入学者参加率 56%

- ③ 高校等主催の模擬授業，入試説明会・相談会に講師を派遣18件（対面型13件 オンライン5件）

4.5. 個別教員の活動（高度教養教育・学生支援機構【要覧2020】より抜粋）

倉元 直樹（教授）

〔専門分野〕

教育心理学，社会心理学，教育学，科学教育，基礎看護学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

実験心理学各論（心理学統計法），実験心理学演習IV，実験心理学特論IV，教育情報学応用論特論I，教育情報学応用論概論，教育情報学応用論研究演習I，実験心理学研究演習IV，関西学院大学専門職大学院経営戦略研究科「大学運営」

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（主査1名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

大学院学生（博士課程後期3年の課程）論文発表件数:3件 学会発表件数:1件
国際会議発表件数:1件

大学院学生（修士課程）論文発表件数:3件

〔その他教育上に関する活動〕

（教育方針の実践例）倉元研究室ゼミ

（教育方針の実践例）週ゼミの実施（コロナ対応）

〔論文〕

（共著）「高大接続改革に対する高校側の意見とその変化——「受験生保護の大原則」の観点から——」 『日本テスト学会誌』 16巻 2020年6月

（単著）「共通1次からセンター試験への改革は受験生と大学に何をもたらしたのか」 『変革期の大学入試』 21-49 2020年6月

（共著）「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」——頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ——」 『教育情報学研究』 19巻 55-69 2020年12月

（共著）「大学入試英語問題における出題形式による識別力比較——英文和訳・和文英訳の機能を中心に——」 『大学入試研究ジャーナル』 31巻 140-145 2021年3月

（共著）「大学入試における少人数を対象としたオンライン筆記試験の可能性——大学の授業における期末考査をモデルケースとして——」 『大学入試研究ジャーナル』 31巻 338-344 2021年3月

（共著）「大学進学における相談相手の役割に関する日中比較研究——相談頻度を中心に——」 『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7巻 209-223 2021年3月

（共著）「東北大学における一般入試前期日程志願者の学力水準の経年分析——過去3年分の大学入試センター試験成績から——」 『大学入試研究ジャーナル』 31巻 134-139 2021年3月

（共著）「わが国の高大接続改革と中国，韓国，台湾の大学入試多様化政策——特に中国の入試改革との同型性，共時性を中心に——」 『大学入試研究ジャーナル』 31巻 83-90

2021年3月

[会議の発表・講演]

「中国の大学入試政策——韓国, 台湾, そして, わが国における高大接続改革との関連性を中心に——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会 (開催中止) 2020年6月

「英文和訳・和文英訳は大学入試で選抜機能を果たしているか——大学入試英語問題における出題形式による識別力比較——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会 (開催中止) 2020年6月

「東北大学志願者の学力水準の経年分析——過去3年間の大学入試センター試験成績から——」 口頭 (一般): 全国大学入学者選抜研究連絡協議会第15回大会 (開催中止) 2020年6月

「大学進学における進路選択プロセスに関する研究——日本の高校生の情報収集活動を中心に——」 ポスター (一般): 日本教育心理学会第62回総会 (開催中止) 2020年9月

「高大接続改革における主要政策に関する高校側の意見 (速報) ——大学入学共通テストにおける政策転換を受けて——」 ポスター (一般): 日本教育心理学会第62回総会 (開催中止) 2020年9月

[総説・解説記事]

(単著) 「今年の受験生を「ロスト・ジェネレーション」にするな!」 『金子書房「こころ」のための専門メディア note (ウェブ雑誌)』 2020年6月

(単著) 「「コロナ禍」の下での大学入試——高大接続改革の方向転換から見えてきた課題と展望——」 『現代思想 2020年10月号』 112-121 2020年10月

(共著) 「A Comparative Study on the Impact of Chinese and Japanese reform policies on the articulation between high schools and universities: High school students' college pathways」 『"2021 Conference, Comparative Education Society of Hong Kong, Online"』 2021年3月

[共同研究活動]

異文化間交流研究会 (旧 国際学校研究会) 国内 1990年10月～

[科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)]

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 代表者

挑戦的研究 (開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦——真正な評価と実施可能性の両立に向けて—— 2019年4月～ 代表者

[学内活動]

全学委員会 入試企画・広報委員会入試改革対応拡大ワーキンググループ座長 2019年4月～2021年3月

全学委員会 入試企画・広報委員会副委員長 2019年4月～

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構長補佐会議委員 2019年4月～2021年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構総務委員会委員 2019年4月～2021年3月

部局内委員会 高度教養教育・学生支援機構紀要・出版委員会委員 2019年4月～

〔学内教職員支援〕

FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第1回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第2回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第4回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第5回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第8回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第13回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第14回) (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (第15回) (講師)
一般入試個別試験作題班会議研修・理科科目長研修 (講師)
一般入試個別試験作題班会議研修・各科目長研修 (講師)
FD: 東北大学入試センター新任教員対象 FD (番外編) (講師)
英語作題班対象 FD (講師)
第6回非公開教員研修「よりよい入学試験の数学2020」 (講師)
科研費アドバイザー (全学) (その他)
農学部入試 FD (講師)
学務審議会 FD (講師)
歯学部AO入試Ⅱ期面接員 FD (講師)
第5回医学部保健学科入試セミナー (講師)
歯学部AO入試Ⅲ期面接員 FD (講師)
歯学部一般選抜 (前期日程) 面接員 FD (講師)

〔プロジェクト活動〕

東北大学アドミッションポリシー策定に関わる基礎調査
東北大学高等教育フォーラムの開催

〔学会活動および外部機関における活動〕

日本テスト学会 日本テスト学会誌編集委員 2004年8月～
日本テスト学会 理事 2005年8月～
国際教育学会 (ISE) 理事 2006年6月～
国際教育学会 (ISE) 学会誌「クオリティ・エデュケーション」編集委員 2007年4月～
国際教育学会 (ISE) 学会賞「館糾賞」選考委員 2007年4月～
全国大学入学者選抜研究連絡協議会 企画委員会委員 2010年4月～
国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～

〔会議の主催・運営〕

(国内会議:主催) 第32回東北大学高等教育フォーラム「新時代の大学教育を考える [17] 大学入試を設計する——『大学入試研究』の必要性とその役割——」 2020年9月23日

〔兼務、兼業など〕

学内 東北大学大学院文学研究科 協力教員 1999年11月～
学内 東北大学入試センター 副センター長 2004年4月～
学外 国立教育政策研究所 フェロー 2017年4月～

学内 東北大学大学院教育学研究科教育情報学応用論協力講座 教授 2018年4月～

〔学外の社会活動〕

東北大学オンライン進学説明会・相談会、「東北大学案内」コンテンツ作成、山形県若手・中堅進路指導研究会主催オンライン講演会講師、秋田県立秋田高等学校保護者対象講演会、秋田県立秋田高等学校生徒対象東北大学入試説明会・進路講演会、教員との意見交換（秋田北高）、教員との意見交換（秋田南高）、岩手県立盛岡第一高等学校生徒対象東北大学入試説明会、高校教員対象オンライン入試説明会（宮城）、高校教員対象オンライン入試説明会（九州）、高校教員対象オンライン入試説明会（北海道）、高校教員対象オンライン入試説明会（中国四国）、高校教員対象オンライン入試説明会（南東北）、高校教員対象オンライン入試説明会（北東北）、高校教員対象オンライン入試説明会（全国）、東北大学オンライン進学説明会・相談会「東北大学入試説明」コンテンツ作成、高校教員対象オンライン入試説明会（全国）、高校教員対象オンライン入試説明会（全国）、秋田県立大曲高等学校生徒対象東北大学入試説明会、青森県高等学校長協会大学進学部会主催講演会講師、宮城県高等学校進路指導研究会主催 東北大学・宮城教育大学・宮城大学 令和2年度入試説明会、山形県立米沢興譲館高等学校生徒対象東北大学説明会、須磨学園高等学校保護者対象オンライン東北大学説明会、夢ナビ LIVE2020 オンライン（仙台）、夢ナビ LIVE2020 オンライン（福岡）、夢ナビ LIVE2020 オンライン（東京）、岩手県立大学看護学部オンライン入試研修コンサルタント、東北大学オンライン進学説明会・相談会、高大接続改革に向けての東北大学ー宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会（通算20回）

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

一般社団法人 国立大学協会 入試委員会 平成32年度以降の国立大学の入学者選抜の在り方に関するワーキンググループ委員 2017年7月～2020年6月

文部科学省 「大学入試のあり方に関する検討委員会」 ヒアリング対象者 2020年5月～2020年5月

独立行政法人 大学入試センター 大学入試センター研究開発部主催「緊急オンラインフォーラム」 メンバー 2020年6月～2021年4月

〔報道〕

新聞（その他）「高3が意見『振り回された』」 朝日新聞 2020年5月15日

新聞（その他）「新井紀子教授ら有識者と高校生 大学入試検討会議で提言」 教育新聞 2020年5月15日

雑誌（資料提供）「国立大にはAO・推薦で入る」 AERA 2020年5月18日

新聞（資料提供）「大学入試 日程見通せず」 読売新聞 2020年5月29日

新聞（資料提供）「大学推薦入試受験生困惑」 北海道新聞 2020年6月8日

新聞（資料提供）「改革頓挫、新試験・・・ 大学入試を検証 受験生をどう保護 東北大、シリーズ刊行」 秋田魁新報 2020年6月26日

新聞（資料提供）「共通テスト初回は波乱含み 『第2日程』新設に批判も」 日本経済新聞 2020年7月1日

新聞（資料提供）「大学入学共通テストまで半年 学力の二極化危惧」 河北新報 2020年7月25日

新聞（資料提供）「【特集】総合型・学校推薦型選抜に挑む 定員3割目指す国立大、私大も増枠の動き」朝日新聞 EduA 2020年7月26日

新聞（資料提供）「第2日程 選びたくても・・・」朝日新聞 2020年8月3日

新聞（資料提供）「東北の国立大 総合型選抜枠拡大相次ぐ」河北新報 2020年8月10日

雑誌（その他）「改革の混迷に『大学入試学』提唱——東北大学が『高等教育フォーラム』——」内外教育 2020年11月10日

新聞（資料提供）「視点 迷走総括し試験内容検証を」朝日新聞 2021年1月18日

雑誌（資料提供）「『社会で使える力』が肝 初の大学入学共通テスト出題とコロナ対策を検証」AERA 2021年1月25日

雑誌（資料提供）「得点知らずに出願に異議」AERA 2021年2月8日

新聞（資料提供）「大学入試苦肉の策 コロナ下の個別試験」日本経済新聞 2021年2月27日

〔教育活動〕

受入れ学生：留学生4名（博士課程前期2名，後期1名，研究生1名），社会人3名（前期1名，後期2名）

宮本 友弘（教授）

〔専門分野〕 教育心理学

〔担当授業科目（他大学も含む）〕

教育情報学応用論研究演習Ⅱ，教育情報学応用論概論，心理学特別演習（統計）

〔学位論文指導・審査〕

博士1名（副査1名）

〔指導大学院生・学部生の発表件数〕

2020年度 大学院学生（博士課程後期3年の課程）論文発表件数:5件 学会発表件数:1件

〔その他教育上に関する活動〕

（その他）放送大学「BSキャンパス ex 特集 大学入試をどう考えるのか 第4回 高大接続における多面的・総合的評価の実際」に講師として出演

〔論文〕

（共著）「理学療法士養成校の学生はいかにして国家試験を乗り切るか？—グループ学習による学習動機づけの促進—」『保健医療学雑誌』11巻1号 24-33 2020年4月

（共著）「高大接続改革に対する高校側の意見とその変化——「受験生保護の大原則」の観点から——」『日本テスト学会誌』16巻 2020年6月

（共著）「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」『教育情報学研究』19巻 55-69 2020年12月

（共著）「東北大学における一般入試前期日程志願者の学力水準の経年分析——過去3年間の大学入試センター試験成績から——」『大学入試研究ジャーナル』31巻 134-139 2021年3月

（共著）「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」『大学入試研究ジャーナル』31巻 394-400 2021年3月

(共著)「Visual Display Terminal 作業ガイドラインに沿った教育分野における情報機器利用時の留意事項と課題」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7巻 267-280 2021年3月

(共著)「オンラインによる入試広報の展開—「オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して—」『東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要』 7巻 57-65 2021年3月

(共著)「書字力の発達に関する調査研究—小学校4年生の視写力に着眼して—」『九州国語教育学会紀要』 10巻 13-22 2021年3月

〔著書〕

『変革期の大学入試』金子書房 2020年6月

『教研式標準学力検査 NRT (小学校)』図書文化 2020年7月

〔会議の発表・講演〕

「保育者の『見守る』に対する学生の認識 (2)」ポスター (一般): 日本保育学会第73回大会 2020年5月

「改訂要領・指針で、保育はどのように変わったか—保育の質向上への具体的方策を探る—」シンポジウム・ワークショップ・パネル (公募): 日本保育学会第73回大会 2020年5月

「東北大学志願者の学力水準の経年分析—過去3年間の大学入試センター試験成績から—」口頭 (一般): 令和2年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会大会 (第15回) 2020年6月

「理学療法士国家試験対策における学習動機づけの調整スタイルの類型化とその特徴」ポスター (一般): 日本教育心理学会第62回総会 2020年9月

「高大接続改革における主要政策に関する高校側の意見 (速報) —大学入学共通テストにおける政策転換を受けて—」ポスター (一般): 日本教育心理学会第62回総会 2020年9月

「「大学入試学」の実践と成果—エビデンスに基づく東北大学の入試改革—」シンポジウム・ワークショップ・パネル (指名): 第32回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する—「大学入試研究」の必要性とその役割— 2020年9月

「高大接続と大学入試改革」その他: 東北大学 PD セミナー 2020年10月

「Exploring outcomes of outdoor orientation programs: Comparison between the United States and Japan」口頭 (一般): 2020 Symposium on Experiential Education Research 2020年11月

〔総説・解説記事〕

(単著)「アセスメント」『指導と評価』 66巻4月号 21-24 2020年4月

(単著)「標準学力検査—NRTとCRT—」『指導と評価』 66巻7月号 8-10 2020年7月

(単著)「ICTを活用したオンライン教育について、思うこと／考えること」『指導と評価』 67巻1月号 4-5 2021年1月

〔科学研究費補助金獲得実績 (文科省・学振)〕

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比

比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 分担者

挑戦的研究(開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦—真正な評価と実施可能性の両立に向けて— 2019年4月～2023年3月 分担者

基盤研究(C) 中年期における自己充實的達成動機と精神的健康との関連に関する研究 2020年4月～2023年3月 分担者

基盤研究(C) 書字基礎データ採取のための調査研究 2020年4月～2023年3月 分担者

基盤研究(B) 芸術統合型学習を通じた美術教育の再定義～横断的実践調査及び質問紙法による学力分析 2020年4月～2024年3月 分担者

[その他の競争的資金獲得実績]

(その他受託研究費 NEDO 戦略的イノベーション創造プログラム) 高精度教育ビッグデータをベースとして教育支援の公教育への導入推進 2019年4月～2021年3月

[学術関係受賞]

優秀論文賞 授与機関:日本野外教育学会 2020年7月

[学内活動]

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2016年4月～

全学委員会 入試実施委員会委員 2016年5月～

全学委員会 入学試験実施本部総括部電算集計班長(副) 2017年4月～

全学委員会 広報戦略推進室員 2018年4月～

全学委員会 入試企画・広報委員会情報開示WG座長 2019年4月～2021年3月

全学委員会 入試企画・広報委員会広報WG オンライン作業部会座長 2020年4月～2021年3月

全学委員会 入試企画・広報委員会広報WG座長 2020年4月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会委員 2016年4月～

部局内委員会 施設整備委員会委員 2018年4月～

その他の主要活動 令和3年度大学入学共通テスト試験(第1日程, 第2日程)実施本部員 2021年1月～2021年1月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜(前期日程)入学試験実施本部員 2021年2月～2021年2月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜(後期日程)入学試験実施本部員 2021年3月～2021年3月

その他の主要活動 令和3年度私費外国人留学生入試実施本部員 2021年3月～2021年3月

[学内教職員支援]

令和2年度入試センター教員対象FDの講師を担当し, 東北大学高等教育フォーラム(第3回), 入試研究(第9回), 東北大学の入試広報戦略(第10回)について解説した。(講師)

文学部の令和3年度AOⅡ期面接試験FDの講師を担当し, 出願状況, 令和2年度の第2次選考の分析結果, 大学入試の諸原則, 面接試験のポイント, 面接員の心得, 評価方法の工夫について解説した。(講師)

文学部の令和3年度AOⅢ期面接試験FDの講師を担当し, 出願状況, 令和2年度の第2

次選考の分析結果，面接試験のポイント，面接員の心得について解説した。（講師）

〔学会活動および外部機関における活動〕

国立教育政策研究所 国際数学・理科教育動向調査(TIMMS)国内専門委員 2017年2月～

日本テスト学会 理事 2017年8月～

日本テスト学会 編集出版委員 2017年8月～

日本教育心理学会 「教育心理学研究」編集委員 2019年1月～

〔会議の主催・運営〕

（国内会議:運営）第32回東北大学高等教育フォーラム 2020年9月23日

〔学外の社会活動〕

オンライン入試説明会北関東セッション①，オンライン入試説明会南関東セッション①，
オンライン入試説明会北信越セッション①，オンライン入試説明会南関東セッション②，
オンライン入試説明会東海セッション②，オンライン入試説明会南関東セッション③，
オンライン入試説明会宮城セッション③，オンライン入試説明会北関東セッション③，
オンライン入試説明会東海セッション③，オンライン入試説明会南関東セッション④，
オンライン入試説明会宮城セッション④，オンライン入試説明会宮城セッション⑤，
オンライン入試説明会全国セッション⑥，オンライン入試説明会宮城セッション⑥，
オンライン入試説明会全国セッション⑦，私立茨城高等学校主催「大学入試説明会」，
夢ナビ LIVE2020 オンライン（仙台），山口県立下関南高等学校主催「2学年進路講演会・
東北大学説明会」，東北大学オンライン進学説明会，東北大学オンライン進学相談会，
宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔行政機関・企業・NPO等参加〕

株式会社 図書文化社 「指導と評価」編集委員 2016年4月～

一般財団法人 応用教育研究所 理事 2017年11月～

一般財団法人 日本図書文化協会 理事 2019年11月～

〔その他〕

入試センター内に設置されたオンライン広報作業部会の責任者となり，オンライン入試説明会（高校教員向け），オンライン進学説明会・相談会（高校生・受験生向け），オンラインオープンキャンパスの企画・運営において中心的な役割を果たした。

久保 沙織（准教授）

〔担当授業科目（他大学も含む）〕 全学教育 教育情報学応用論概論，社会調査法

〔論文〕

（共著）「“Marginal age” among seniors living in rural Japan: An analysis of factors related to changes in life expectancy and quality of life among seniors living in an underpopulated area of Japan」 『日本健康医学会雑誌』 29巻2号 163-177 2020年7月

（共著）「東北大学における入試広報活動の「これまで」と「これから」—頂点への軌跡からオンライン展開への挑戦へ—」 『教育情報学研究』 19号 55-69 2020年12月

（共著）「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」 『大学入試研究ジャーナル』 31巻 394-400 2021年3月

(共著)「オンラインによる入試広報の展開 ―「オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して―」『東北大学 高度教養教育・学生支援機構紀要』7号 57-65 2021年3月

[会議の発表・講演]

「金融リテラシー教育が主観的割引率及びリスク選好に与える影響について」口頭(一般):しごと能力研究会第13回全国大会 2020年11月

[共同研究活動]

過疎地在住高齢者の余命, QOL, 認知症リスクに影響を与える要因について 国内 2014年4月～

金融リテラシー教育の効果測定 国内 2017年9月～

アルコール使用障害に関連する要因の探索的抽出 国内 2021年1月～

[科学研究費補助金獲得実績(文科省・学振)]

基盤研究(A) 高大接続改革の下での新しい選抜方法に対する教育測定論・認知科学・比較教育学的評価 2016年4月～2021年3月 分担者

基盤研究(C) 相関係数の異常な挙動の解明とそれに対する対処 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 超高齢社会を支える卒前からの四肢脊柱診察教育プログラムの開発と評価 2018年4月～2022年3月 分担者

基盤研究(C) 筆記試験、実技試験、業務基盤型評価を合否判定に組み込むための信頼性検証 2019年4月～2022年3月 分担者

挑戦的研究(開拓) 「大学入試学」基盤形成への挑戦―真正な評価と実施可能性の両立に向けて― 2019年6月～2023年3月 分担者

[学内活動]

全学委員会 入試企画・広報委員会委員 2020年4月～

全学委員会 入試実施委員会委員 2020年4月～

部局内委員会 工学部入試検討委員会専門協力者 2020年4月～

その他の主要活動 オンライン広報作業部会 2020年4月～2021年3月

その他の主要活動 入試企画・広報委員会情報開示WG 2020年4月～2021年3月

その他の主要活動 入試企画・広報委員会広報WG 2020年4月～2021年3月

その他の主要活動 入試企画・広報委員会入試改革対応拡大WG 2020年4月～2021年3月

その他の主要活動 令和3年度大学入学共通テスト第1日程・第2日程 試験実施本部員 2021年1月～2021年1月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜前期日程 試験実施本部員 2021年2月～2021年2月

その他の主要活動 令和3年度一般選抜後期日程 試験実施本部員 2021年3月～2021年3月

その他の主要活動 令和3年度私費外国人留学生入試試験監督 2021年3月～2021年3月

[学内教職員支援]

令和2年度入試センター教員対象FDの一部において講師を担当「共分散比と相関比の

理解と解釈」(講師)

理学系研究科, 情報科学研究科, 高度教養教育・学生支援機構が共同で主催している FD「第 6 回非公開教員研修『よりよい入学試験の数学 2020』」で講師に随行(その他)
教育 FD として認定されている第 32 回東北大学高等教育フォーラムの事務局を担当 (FD/SD の企画・運営)

農学部主催の FD「AO 入試の面接の質向上について」で講師に随行(その他)

文学部主催の AO 入試 II 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD で講師に随行(その他)

医学部保健学科主催の FD・SD「第 6 回東北大学医学部保健学科入試セミナー」で講師に随行(その他)

歯学部主催の AO 入試 III 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD で講師に随行(その他)

文学部主催の AO 入試 III 期第 2 次選考面接担当教員対象の FD で講師に随行(その他)

歯学部主催の一般選抜前期日程面接担当教員対象の FD で講師に随行(その他)

〔学会活動および外部機関における活動〕

公益社団法人日本人事試験研究センター 試験専門委員(心理) 2018 年 4 月～

日本行動計量学会 広報委員会委員(会報作成担当) 2019 年 4 月～2021 年 3 月

公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構 試験信頼性向上検討委員会委員 2020 年 4 月～

日本教育心理学会 機関誌『教育心理学研究』常任編集委員会 2021 年 1 月～2023 年 12 月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議:運営) 第 32 回東北大学高等教育フォーラム「大学入試を設計するー『大学入試研究』の必要性とその役割ー」 2020 年 9 月 23 日

〔学外の社会活動〕

高校個別訪問(秋田県立秋田高等学校), 高校個別訪問(秋田県立秋田北高等学校)

高校個別訪問(秋田県立秋田南高等学校), 高校個別訪問(岩手県立盛岡第一高等学校),

東北大学オンライン入試説明会, 高校個別訪問(山形県立米沢興譲館高等学校), 夢ナビ

LIVE2020 オンライン(仙台), 大学説明会(須磨学園高等学校・オンライン), 高校個別

訪問(青森県立青森高等学校), 高校個別訪問(青森県立弘前高等学校), 令和 2 年度「大

学個別進学相談会(北海道函館中部高等学校), 夢ナビ LIVE2020 オンライン(東京),

高校個別訪問(青森県立八戸高等学校), 高校個別訪問(青森県立八戸北高等学校), 東北

大学オンライン進学説明会・相談会, 宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔研究活動〕

令和 2 (2020) 年 4 月に本学に着任し, 2019 年 7 月 2 日～2020 年 7 月 1 日に新規採用となった本学を本務とする女性教員を対象とした 2020 年度 TUMUG 支援事業(男女共同参画・女性研究者支援事業)「スタートアップ研究費」に「入試問題の作題支援に資する統計指標の選択と検証」という研究テーマで応募し, 採択された(支援金額 400,000 円)。

〔大学運営・支援及び医療業務〕

表記統一を目的とした入学者選抜要項の記載事項点検

〔社会貢献〕

『心理学研究』の査読1件, 『行動計量学』の査読2本, 『教育心理学研究』の査読1本

檜田 豪利 (特任教授)

〔専門分野〕

高等学校理科教育 (化学), 機器を活用した授業設計

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕

大学院教育 教育情報応用論概論 ゲスト講師 (2回)

〔論文〕

(共著) 「オンラインによる高校教員向け入試説明会の実践と評価」 『大学入試研究ジャーナル』 31号 394-400 2021年3月

〔著書〕

(単著) 『思考力が身につく化学実験問題31』 駿台文庫 2021年3月

〔総説・解説記事〕

(共著) 「オンラインによる入試広報の展開-「オンライン進学説明会・相談会」の実践を通して-」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7号 57-65 2021年3月

(単著) 「学校訪問データベースの制作と活用 -戦略的な広報活動を目指して-」 『東北大学 高度教養教育・学生支援機構 紀要』 7号 291-297 2021年3月

〔兼務、兼業など〕

学外 (株) 駿台文庫 著者 2009年4月～

〔学外の社会活動〕

オンライン入試説明会全国対象のセッション, オンライン入試説明会北関東セッション
オンライン入試説明会近畿地区セッション, オンライン入試説明会北信越セッション
オンライン入試説明会北関東セッション, オンライン入試説明会北関東セッション
オンライン入試説明会北信越セッション, オンライン入試説明会近畿地区セッション
オンライン入試説明会北関東セッション, 山東探求塾Ⅱ課題研究プレ発表会 (山形東高等学校) 指導・助言者, 山形県立山形東高校訪問, 生徒へのガイダンス, 夢ナビ LIVE2020
オンライン (仙台), 夢ナビ LIVE2020 オンライン (東京), 山東探求塾Ⅱ課題研究中間発表会 (山形東高等学校) 指導・助言者・審査委員, 山東探求塾Ⅱ課題研究成果発表会 (山形東高等学校) 指導・助言者・審査委員

〔入試センター業務〕

- 1) 広報活動: 入試説明会 (5回), 進学説明会 (4回), 学校訪問 (10校), 大学説明会 (2回)
- 2) 協議会等参加: 全国大学入学者選抜研究連絡協議会 (発表) など4回
- 3) フォーラムの運営
- 4) 入試企画広報委員会および同WGへオブザーバーとして出席
- 5) 工学部入試検討委員会および第2小委員会へオブザーバーとして出席
- 6) 高大接続に関わる種々の取り組みについて, 情報の収集と分析

〔高等学校等への協力〕

- 7) 高等学校1年生を対象とした進学オリエンテーションにて講師として参加 (1件)
- 8) 東北大学進学志望者への大学紹介 (5件)

秦野 進一 (特任教授)

〔担当授業科目 (他大学も含む)〕 教育情報学応用論概論

〔論文〕

(共著) 「大学入試英語問題における設問形式による識別力比較—英文和訳・和文英訳は大学入試で選別機能を果たしているか—」 『令和 2 年度全国大学入学者選抜研究連絡協議会第 15 回大会研究発表予稿集 (クローズドセッション用)』 27-32 2020 年 8 月

(共著) 「大学入試英語問題における設問形式による識別力比較—英文和訳・和文英訳は大学入試で選別機能を果たしているか—」 『大学入試研究ジャーナル』 31 巻 140-145 2021 年 3 月

〔会議の主催・運営〕

(国内会議:運営) 第 32 回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する—「大学入試研究」の必要性とその役割 2020 年 9 月 23 日

〔学外の社会活動〕

夢ナビ LIVE2020 オンライン (仙台), 高校訪問・オンライン情報交換会 (東京都立戸山高校), 夢ナビ LIVE2020 オンライン (東京), 宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

末永 仁 (特任教授)

〔専門分野〕

高等学校理科教育 (生物)

〔担当授業科目〕 教育情報学応用論概論

〔会議の主催・運営〕

(国内会議:運営) 第 32 回東北大学高等教育フォーラム 大学入試を設計する—「大学入試研究」の必要性とその役割 2020 年 9 月 23 日

〔学外の社会活動〕

オンライン入試説明会, 川口市立高等学校国公立大学合同説明会 (オンラインで実施), 夢ナビライブ 2020・仙台 (オンライン), 東北大学オンライン進学相談会, 宮城県進路指導研究会進学部会情報交換連絡会

〔その他〕

入研協への出席